

JUDI 20 year's walking

# JUDI 20年の歩み



都市環境デザイン会議

Japan Urban Design Institute





# 目次

---

●都市環境デザイン会議の概要 .....	01
●ブロック活動 20 年の歩み	
北海道ブロック .....	04
東北ブロック .....	06
北陸ブロック .....	08
関東ブロック .....	10
中部ブロック .....	14
関西ブロック .....	16
中国ブロック .....	20
四国ブロック .....	22
九州ブロック .....	24
琉球ブロック .....	26
●委員会活動 20 年の歩み	
広報委員会 .....	28
研修委員会 .....	30
事業委員会 .....	32
国際委員会 .....	34
美しい都市ランキング評価委員会 .....	36
20 周年記念事業特別委員会 .....	37



# 都市環境デザイン会議の概要

作山 康 Sakuyama Yasushi 芝浦工業大学

## 1. JUDIの概要

### (1) 目的・活動

近年わが国においては、魅力ある都市空間を創ろうとする意欲の高まりから、多くの公的機関や都市環境に関心を持つ市民組織等において、都市景観を美しく、またうるおいのあるものとしようとする取り組みが活発になされている。

一方、都市環境を構成する要素は、道路、公園、広場、橋、河川などの公共施設、また公共建築や集合住宅、商業施設などの建築物、さらに環境彫刻や標識、環境色彩、照明等多岐にわたる。そしてこれらの各分野それぞれにおいて、よりよいデザインや景観の形成を目指して様々な努力、工夫がなされているが、創りだされた環境総体をみると全体としての調和に欠けていたり、また、その街の個性や歴史的な脈絡に適切な折り合いが付いていない等の状況も多く見受けられる。

加えて、今日、都市そのもののあり方や都市環境のあり方も根本から問われており、都市環境デザインの面からもあるべき空間の基本的構成について発言をし、よりよい都市環境の土台づくりをしていかなければならない状況にあると考える。

このような状況にたいして、都市環境デザインに関心を持ち、少しでも魅力のある都市空間の創造を目指して、各人が各々の立場からこれまで様々な努力を積み重ねてきているが、その結果は必ずしも満足いく水準に至っていない。より魅力的な都市環境の創造のためには、都市環境デザインに様々な分野で携わる人々が結集し、都市環境のデザインを進めるに際して必要とされる協力的体制や、これを容易にするネットワークを確立し、総合的な都市空間づくりを可能にするよう各方面に働きかけていく必要があると考える。

このような認識から、本都市環境デザイン会議は、わが国の都市環境デザインを取り巻く諸問題を解決し、よりよい都市環境を形成していくために、都市環境デザインに係わる多様な分野や立場の人々の拠り所となり、またネットワークの構築や情報交換等の基盤となる新しい組織として、1991年5月に設立された。

本会はこれまでの活動を通じ、都市環境のデザインに係わる各分野、各地域、さらに国、地方公共団体、大学、コンサルタント、企業等の異なった立場にある人々を横断的に結び、これらの人々が相互に意見を交換し、また協力して魅力ある都市環境の形成に努めるべく実績を積み重ねてきた。今後とも会員の資質を高めるとともに、都市環境デザインの重要性について広く社会の認識を高め、これらを通じてより質の高い都市環境が実現されるよう本会議の活動を展開する予定

である。

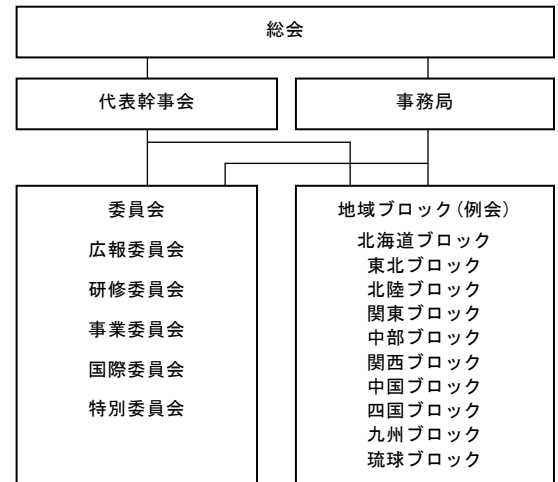
### (2) 事業内容

都市環境デザイン会議は、その目的を達成するために、以下の事業を行っている。

- 都市環境デザインに関心を持つ人々相互のネットワーク形成のために必要とされる事業
- 都市環境デザインに関する情報の交換、発信
- 都市環境デザインの水準向上のための事業
- 会員の資質の向上、都市環境デザインに関する人材の育成に係わる事業
- 都市環境デザインを巡る諸問題に関する研究、提言
- その他、本会の目的達成のために必要とされる諸事業

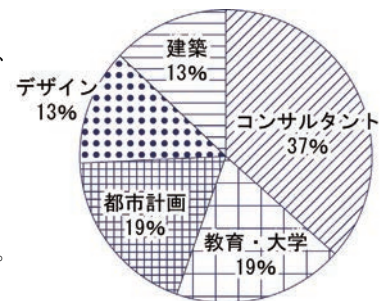
### (3) 組織

事業を円滑に進め、また活動を活発にするために、本会の組織は、規約により下図に見られるような機構により運営している。



## 2. 会員の構成

2011年6月現在、会員数は382名である。2008年のアンケートから会員の構成をみると、右図の通りである。



## 3. 在(会員)の物故

岡道也(九州)、繁野舜(中部)、西沢健(関東)、有光友興(関西)、川井由寛(関東)、中居敬一(東北)、南條道昌(関東)、柿木孝介(中部)

#### 4. 概要年表

	開催日	会議名	場所
1期	1991. 5. 11	発足会	東京霞ヶ関・東海大学校友会館
	〃	設立総会	〃
	1991. 11. 30	全国ブロック幹事会	大成建設湯河原研修クラブ
2期	1992. 5. 23	臨時総会	東京霞ヶ関・東海大学校友会館
	1992. 7. 18	第2期定期総会	東京四谷・スクワール麹町
3期	1992. 11. 25	全国ブロック幹事会	長野県小布施町・小布施堂会議室
	1993. 7. 23	第3期定期総会	東京天王洲アイル
4期	1994. 1. 30	全国ブロック幹事会	金沢ワシントンホテル
	1994. 7. 9	第4期定期総会	東京天王洲アイル
5期	1995. 2. 5	全国ブロック幹事会	小樽グランドホテルクラシック
	1995. 7. 15	第5期定期総会	東京天王洲アイル
6期	1995. 11. 19	全国ブロック幹事会	徳島市・徳島城博物館内会議室
	1996. 7. 13	第6期定期総会	東京天王洲アイル
7期	1996. 10. 26	全国ブロック幹事会	広島県庄原市・備北丘陵公園
	1997. 7. 12	第7期定期総会	東京・パルテノン多摩
8期	1997. 10. 25	全国ブロック幹事会	盛岡市・パルソビル会議室
	1998. 7. 11	第8期定期総会	東京天王洲アイル
9期	1998. 11. 14	全国ブロック幹事会	福岡市・博多東急ホテル
	1999. 7. 17	第9期定期総会	東京天王洲アイル
10期	1999. 11. 6	全国ブロック幹事会	名古屋都市センター
	2000. 7. 15	第10期定期総会	東京天王洲アイル
	2000. 11. 3	10周年記念大会	滋賀県大津市・ピアザ淡海
	〃	全国ブロック幹事会	〃
11期	〃	JUDI 大賞選考・授与式	〃
	2001. 7. 14	第11期定期総会	東京天王洲アイル
12期	2001. 12. 1	全国ブロック幹事会	さいたま新都心・ラフレさいたま
	2002. 7. 13	第12期定期総会	東京天王洲アイル
13期	2002. 10. 19-20	全国ブロック幹事会	札幌市・KKR札幌
	2003. 7. 5	第13期定期総会	東京天王洲アイル
14期	2003. 11. 15-16	全国ブロック幹事会	那覇市・ホテル西部オリオン
	2004. 7. 17	第14期定期総会	東京・東京大学弥生講堂
15期	2005. 7. 16	第15期定期総会	大阪市中央公会堂
16期	2006. 7. 15	第16期定期総会	金沢市・石川県教育会館
17期	2007. 7. 14	第17期定期総会	名古屋都市センター
18期	2008. 7. 19	第18期定期総会	柏市・千葉大学柏の葉キャンパス
19期	2009. 7. 19	第19期定期総会	仙台市・宮城県民会館
20期	2010. 7. 17	第20期定期総会	東京・芝浦工業大学豊洲校舎

5. 歴代代表役員

役職	1991年度	1992年度 1993年度	1994年度 1995年度	1996年度 1997年度	1998年度 1999年度	2000年度 2001年度	2002年度 2003年度	2004年度 2005年度	2006年度 2007年度	2008年度 2009年度	2010年度 2011年度	
代表幹事	加藤 源 篠原 修 高橋志保彦 土田 旭 鳴海 邦碩 西沢 健	加藤 源 大塚 守康 菅 孝能 近田 玲子 窪田 陽一 南條 道昌 高橋志保彦 中野 恒明 鳴海 邦碩 林 英光	加藤 源 大塚 守康 倉田 直道 近田 玲子 岸井 隆幸 南條 道昌 窪田 陽一 成瀬 惠宏 榊原 和彦 森 延彦	伊藤 洋 井口 勝文 倉田 直道 高橋志保彦 吉田 慎悟 岸井 隆幸 西沢 健 谷 明彦 成瀬 惠宏 宮前 保子	伊藤 洋 天野光一 (伊藤 登) 宮城 俊作 高橋志保彦 吉田 慎悟 面出 薫 井口 勝文 谷 明彦 岡 道也 宮前 保子	伊藤 登 丸茂 弘幸 宮城 俊作 八木 健一 岡 道也 面出 薫 江川 直樹 川井 由寛 天野 光一 澤田晴委智郎	伊藤 登 中井川正道 宮城 俊作 八木 健一 川井 由寛 面出 薫 江川 直樹 丸茂 弘幸 天野 光一 澤田晴委智郎	伊藤 登 中井川正道 堀口 浩司 八木 健一 川井 由寛 鳥越けい子 丸茂 弘幸 澤田晴委智郎 柳田 良造	杉山 朗子 中井川正道 堀口 浩司 鳥越けい子 松村みち子 堀口 浩司 横川 昇二 柳田 良造	大矢 京子 作山 康 重山陽一郎 須永 徹子 高見 公雄 服部 圭郎 堀口 浩司 横川 昇二 埴 正浩	大矢 京子 作山 康 白濱 力 須永 徹子 高見 公雄 高谷 時彦 長沼眞智子 中野 恒明 中村 伸之 松本 篤	栗原 裕 斉藤 浩治 酒本 宏 白濱 力 高谷 時彦 長沼眞智子 中野 恒明 長町 志穂 中村 伸之 松本 篤
監査役	菅 孝能 佐野 寛	西沢 健 佐野 寛	西沢 健 高橋志保彦	加藤 源 南條 道昌	加藤 源 南條 道昌	大塚 守康 成瀬 惠宏	大塚 守康 成瀬 惠宏	井口 勝文 八木 健一	井口 勝文 八木 健一	江川 直樹 小浪 博英	江川 直樹 小浪 博英	
幹事												
北海道	矢島 建 富田 勲 柳田 良造	矢島 建	矢島 建	山崎 正弘	柳田 良造	柳田 良造	酒本 宏	酒本 宏	辻井 順	辻井 順	高森 篤志	
東北	山崎 洋二 久木田禎一 村上 茂	山崎 洋二	山崎 洋二	久木田禎一	久木田禎一	中居 敬一	斉藤 浩治	渡辺 敏男 斉藤 浩治	渡辺 敏男 斉藤 浩治	斉藤 浩治	永松 栄	
北陸	水野 一郎 樋口 忠彦	水野 一郎	水野 一郎	樋口 忠彦	樋口 忠彦	稲葉 実	森 俊偉	谷 明彦	谷 明彦	川上 洋司	川上 洋司	
関東	窪田 陽一 岡村 勝司 中野 恒明	天野 光一 岡村 勝司 伊藤 洋 成瀬 惠宏	八木 健一 中野 恒明 伊藤 洋 横川 昇二	八木 健一 峰岸 久雄 西村 幸夫 中井川正道 横川 昇二	作山 康 峰岸 久雄 中井川正道 地福 由紀	作山 康 植本 俊介 須永 徹子 地福 由紀	小浪 博英 須永 徹子 高見 公雄 横川 昇二	小浪 博英 高見 公雄 山川 良子 山名 清郷	栗原 裕 府川 充 屋代 雅充 山川 良子	栗原 裕 府川 充 屋代 雅充 峰岸 久雄	飯田 七和 紺野 朋子 紺野 恭司 峰岸 久雄	
中部	森 延彦 林 英光	森 延彦	玉木 伸秀	澤田晴委智郎	澤田晴委智郎	繁野 舜	繁野 舜	集山 一廣	集山 一廣	谷口 庄一	谷口 庄一	
関西	井口 勝文 大塚 守康 榊原 和彦	井口 勝文	江川 直樹	土橋 正彦	長谷川弘直	森重 和久	堀口 浩司	宮前 保子	千葉 桂司	金澤 成保	角野 幸博	
中国	寺本 和雄 松波 龍一	寺本 和雄	金谷 啓紀	五百田 定	秋本 徹	長沼眞智子	長沼眞智子	杵村優一郎	伊藤 幹郎	宮迫 勇次	藤本まりこ	
四国	大谷 英二 林 茂樹	大谷 英二	林 茂樹	大西 泰弘	白石 高啓	重山陽一郎	島 博司	本田 寿	大西 泰弘	重山陽一郎	山中 英生	
九州	岡 道也 延藤 安弘	岡 道也	岡 道也	大久保裕文	大久保裕文	玉田 孝二	玉田 孝二	十時 裕	十時 裕	尾辻 信宣	尾辻 信宣	
琉球							石嶺 一	石嶺 一	石嶺 一	木下能里子	木下能里子	

# 北海道ブロック 20 年の歩み

高森篤志 Takamori Atsushi 株式会社ソフトスケープ

## 1. 北海道ブロックの 20 年

JUDI 北海道ブロックは単県のブロックということもあり、会員数も多いとは言えない。しかしながら、これまで中心的役割を担ってきていただいた歴代のブロック幹事のご尽力もあり、この 20 年に様々な取り組みがあり、成果を得てきた。その歩みをふり返りたい。

## 2. 北海道ブロックの活動の歩み

### (1) 活動の初動期

北海道ブロックの初動期は、ブロック幹事の矢島健氏が中心となり、シンポジウムや街歩き、関西ブロック等他地域との交流などの取り組みを進めてきた。このような中、1996 年に日本建築学会北海道支部とともに主催した、ナイトフォーラム「都心の枠組みづくりとランドスケープ～都会に視覚的秩序をもたらすために～」では、ランドスケープアーキテクトのウィリアムジョンソン氏を招き、145 名の出席者を集めるなど、最初の大きな取り組みとなった。

### (2) 活動の本格化

設立当初 14 名程度だったブロック会員はこのころから増え始め、1998 年には 23 名を数えるようになった。

活動はシンポジウム、フォーラムの開催が中心で、「建築」「照明」「風景計画」「都市開発」「色彩論」など多様なテーマを取り上げた。また、初期の段階から街並みウォッチングなどフィールドワークも多く、「小樽の歴史的街並みミニツアー」「真駒内石切山周辺ウォッチング」、貸切バスによる札幌市内の公園視察会などを定期的に行ってきた。

### (3) デザインガイドブック

1999 年ころから、都市環境デザインガイドブック・雑誌「造景」への原稿執筆に取り組み始めた。2000 年は執筆活動が活動の中心となり、例会を兼ね原稿執筆の編集会議を 6 月から 12 月まで月に最低でも 1～2 回開催した。当時のブロック幹事、柳田良造氏は、「こんなに会員有志が密度高く集まりをもったことはほとんどなかった。かなりの負担ではあったが思い出深い活動になった」と語っている。デザインガイドブック・北海道ブロックの造景特集は、「北海道の風土が育むまちの形」と題し、2000 年 12 月号「函館一復興と再生のまち」、2001 年 2 月号「小樽—運河保存から観光都市へ」、2001 年 8、10 月合併号「内陸都市—札幌と帯広」として発表した。

### (4) JUDI サロン

2002 年ころからは、「JUDI サロン」と題する取り組みを始め、北海道ブロックの基幹的活動として現在ま

でこのシリーズは続いている。JUDI サロンは、気軽に参加できる比較的少人数の集まりで、参加者との意見交換、情報共有を行う場として企画され、簡単な飲食を提供しながら行う場合も多い。時には道内の他のまちづくり団体と共催する場合もあり、JUDI 会員はもとより北海道内のまちづくりに関わる行政、企業、学生が交流する機会を提供する大切な場となっている。

### (5) 都市再生モデル調査

2005 年には北海道ブロックで都市再生モデル調査を受注した。岩見沢市と協力して「大学とまち・住民・産業との包括的交流連携によるまちづくり」をテーマとして、2 回のワークショップと 1 回の座談会を行い、ブロック会員の分担により調査結果を取りまとめた。岩見沢市には芸術とスポーツに特化した北海道教育大学岩見沢分校があり、大学の存在やヒトをどのようにまちづくりに活かすことができるのか、産学官の様々な意見交換が行われた。その結果、市民向けの音楽や芸術のイベントの実施、スポーツの講座、まちのイベントに対する大学の協力など、様々な方向性が示された。岩見沢市では、最近 JR 駅舎が新築されたが、教育大生が建設中の仮囲いに絵を描く活動が行われるなど、一定の成果に結びついている。また、岩見沢市では現在中心市街地活性化や駅前通りの拡幅に伴うまちづくりなどにおいて、学校と連携した取り組みを徐々に進めている。

### (6) 情報発信の取り組み

北海道ブロックでは、ホームページの運営等を通じて、会員以外の一般への情報発信に取り組んでいる。特徴のある取り組みとしては、2003 年から 2005 年にかけて札幌のコミュニティエフエム局「さっぽろ村ラジオ」において「まちづくりサロン」という番組を持ち、毎月 1 回の放送を行っていた。毎回様々なゲストを招き、タイムリーな話題を提供した。今後も機会を見て再開したいと考えている。

### (7) 20 周年記念事業

現在は、JUDI20 周年記念の取り組みとして、「北海道のしあわせな風景」をテーマに活動している。これまでに JUDI サロンを 3 回のシリーズとして開催し、延べ 100 人以上の参加者を得て、建築、都市、土木などをテーマに様々な意見交換を行っている。

また、ホームページ上で、写真投稿ブログを開設し、一般を含む多くの方から「北海道のしあわせな風景」の写真を寄せていただく企画を進めている。現在はあまり活発な動きにはなっていないが、今後充実させていきたいと考えている。



残念ながら、北海道ブロックの会員数は、第 6～7 期の 23 名をピークとして現在 11 名に減少しており、新たな参加者も少ない。このため、20 周年を期に、若手の参加促進を新たなテーマとした。JUDI サロンシリーズでは、毎回 10～20 名程度の学生や若手技術者が参加している。今後も未来を担う若手の参加により、一層様々な活動に取り組みたいと思う。



第 1 回 JUDI サロン  
北海道の風景－これまでとこれから－



第 2 回 JUDI サロン  
風景づくりの現在  
－土木における課題と景観研究、そしてデザインの現場－



第 3 回 JUDI サロン  
風景をつくるチカラ  
－賑わいの風景づくり、その仕掛け－

北海道ブロックの活動経過

期	幹事 (会員数)	年月	活動内容
1 期	矢島 健		
2 期	矢島 健	1993. 4	シンポ「小樽市の景観計画」
3 期	矢島 健 (14 名)	1993. 10	小樽の歴史的まちなみミニツアー
4 期	矢島 健 (16 名)	1994. 9	シンポ「楽しい体験によるまちづくり」
		1995. 2	小樽「歴まち」デザインフォーラム
		1995. 5	シンポ「集住と水辺～フランスとイギリス」
5 期	矢島 健 (20 名)	1995. 10	シンポジウム「土木施設の景観デザインと河川景観の流れ」
		1996. 2	シンポ「北海道の土木施設レビュー」
		1996. 4	フォーラム「都市の枠組みづくりとランドスケープ」
6 期	山崎正弘 (23 名)	1996. 10	フォーラム「まちの灯りを考える」
		1996. 11	ミニシンポ「イタリアの風景計画」
		1997. 5	ミニシンポ「サッポロファクトリーと東地区の開発について」
7 期	山崎正弘 (23 名)	1997. 6	フォーラム「まちのデザインを考える」
		1997. 8	街並みウォッチング「真駒内石切山」
		1998. 3	フォーラム「デザインの手口」
8 期	山崎正弘 (23 名)	1998. 9	フォーラム「色の使い方」
		1999. 2	フォーラム「敷地論+メイドイントウキョウ」
			ミニシンポ「プレゼンテーションの方法」
9 期	柳田良造 (22 名)	2000. 1	フォーラム「北海道の都市計画を語る」
10 期	柳田良造 (22 名)	2001. 2	フォーラム「阪神淡路大震災 5 年目の総括と展望」
			北海道ブロックの造景特集執筆「北海道の風土が育むまちの形」
11 期	柳田良造 (18 名)	2002. 2	「町並みフォーラム in 函館」
		2002. 2	フォーラム「Subconscious Architecture」
12 期	酒本 宏 (16 名)	2002. 7	JUDI サロン「北海道遺産について」
		2002. 10	視察会「モエレ沼地」
		2002. 10	シンポ「都市環境に関わる専門家・市民・行政・企業のコラボレーション」
		2003. 4	JUDI サロン「町並み色彩比較研究－函館・神戸・ポストン・ベルゲン－」
13 期	酒本 宏 (15 名)	2003. 6	シンポ「斉藤裕氏を迎えて」
		2003. 7	JUDI サロン「土田明氏を迎えて」
		2003. 11	ラジオ番組「まちづくりサロン」開始
14 期	酒本 宏 (17 名)	2004. 2	ミニシンポ「日本の都市環境デザイン」
		2004. 7	JUDI サロン「海外報告 スウェーデン・世界の空港」
		2004. 10	シンポ「北海道の都市環境」／小樽
		2004. 10	移動型ワークショップ「滝川市周辺における都市/田園デザイン講座」
		2005. 3	JUDI サロン「サステナブルなまちづくり」
15 期	酒本 宏 (16 名)		都市再生モデル調査「大学とまち・住民・産業との包括的交流連携によるまちづくり(岩見沢市)」 都市ランキン評価の実施
16 期	辻井 順 (16 名)	2007. 5	JUDI サロン「都市住まいにおけるサードプレイス」 都市再生モデル調査フォローアップ
			JUDI サロン「札幌市の風致地区にみるヒトの環境形成と住みこなし力」
17 期	辻井 順 (10 名)	2007. 7	JUDI サロン「炭鉱(ヤマ)の記憶を掘り起こす」
		2007. 8	JUDI サロン「地域ぐるみで仕掛ける」
		2007. 10	JUDI サロン「都市再生モデル調査フォローアップ」
18 期	辻井 順 (11 名)		JUDI サロン 公募型プロジェクト支援「国際比較による東アジア地域の環境色彩分析」
19 期	辻井 順 (11 名)		JUDI サロン「子供の遊び場環境」
20 期	高森篤志 (11 名)	2010. 10	JUDI サロン「北海道の風景－これまでとこれから－」
		2010. 12	JUDI サロン「風景づくりの現在－土木における課題と景観研究、そしてデザインの現場－」
		2011. 5	JUDI サロン「風景をつくるチカラ－賑わいの風景づくり、その仕掛け－」

# 東北ブロック 20年の歩み

斉藤浩治 Saito Koji パシフィックコンサルタンツ株式会社

## 1. JUDI20周年にあたり

20周年を迎えたことは大変意義深いものがある。東北ブロックの20年をふり返ると、会員は最大で19名まで拡大した時期があった。その後、徐々に会員は減少し現在に至っているが、少人数でも活動を継続することが重要である。歴代の幹事諸氏の熱い志を想いながら、東北ブロックの20年の歩みをふり返る。

## 2. 東北ブロックの歩み

### (1) 活動の初動期 (第1～5期)

東北ブロックは、発足当初は僅か4名でのスタートであった。山崎洋二氏を幹事として、南部繁樹氏、村上茂氏、久木田禎一氏(故人)の実力者が揃い少人数ながら精力的な活動が展開された。活動の特徴としては、仙台を活動拠点として、「仙台プランナーの会」と連携しながら、海外の事例紹介や著名な専門家の招聘などを実践し、新たな都市像を提案した。また、定期的に「プランニング塾」を開催し、まちづくり分野の若手育成と人的ネットワークの拡大に努めた。その成果として、第5期には会員数が11名に拡大した。

### (2) 活動の拡大期 (第6～11期)

第6期からは、盛岡を拠点として活動していた久木田禎一氏がブロック幹事に就任した。久木田氏の広い人脈が活かされ、この年に岩手県の会員が一気に増え会員数が拡大(11名→17名)した。

第7期の1997年10月には、盛岡を会場として全国ブロック幹事会を開催し、全国から役員やブロック幹事が盛岡に集った。それに合わせて「都市環境デザインフォーラム IN 盛岡」を開催、一般70名を含む114名の参加があった。これにより JUDI の存在や東北ブロックの存在を広くアピールすることができた。

この時期の活動の特徴としては、毎年、盛岡を会場として「まちづくりセミナー」を開催し、問題提起や提案を行っていた。また、東北ブロック総会は現場に出かけることを基本とし、毎年、東北各地の都市を訪問して、その地域のまちづくり関係者と視察や交流会を行って活動領域を拡大していた。

### (3) 活動の安定期(減退期?) (第12～19期)

第12期以降の状況として、会員の所在地が宮城(仙台)と岩手(盛岡)に2極化したことが挙げられる。

そのため、ブロック幹事を2つの県で持ち回りで担当することが慣例的に行われるようになった。この時期は少しずつ会員数が減少している(14名→6名)。

そのような背景から、会としての求心力が低下し、活動が低迷する状況となったことは否めない。活動のスタイルもメンバーそれぞれが関わる地域や団体への

協力支援という方向となった時期である。

この時期における主な活動としては、斉藤(筆者)が幹事を務めた第12～13期は、2期連続で公募制プロジェクトに取り組んだ。渡辺敏男氏が幹事を務めた第14～15期は、「盛岡シネマタウン」後援や「公会堂アートショウ」後援などの活動が実施された。

### (4) 他ブロックとの共催事業

ブロック活動の拡大策として、他ブロックとの共催事業が実施された。主な活動は下記のものである。

○第5期 棚倉シンポジウム(関東Bとの共催)

○第10期 黒石見学会(北海道Bとの共催)

○第11期 合同交流会(北海道Bとの共催)

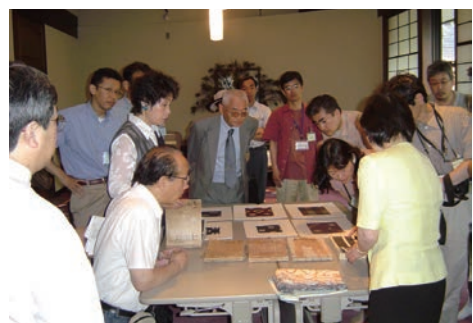
○第12期 長井フォーラム(北海道Bとの共催)

○第18期 会津キャラバン(関東Bとの共催)

○第19期 三春キャラバン(関東Bとの共催)

### (5) 全国総会及びシンポジウムの開催

JUDI 全体として東北ブロックを盛り上げる方策として、第19期定例総会が仙台で開催された。東北地方では初の開催である。全国から多くの会員が仙台に集い、総会やモニターメッセ、東北ブロック主催のシンポジウムや見学会など、盛りだくさんの3日間を過ごした。同時開催した東北ブロック主催の「まちづくりシンポジウム～獲得されるパブリック空間～」は、仙台を拠点として活動している芸術や文化活動の実践者を集め、彼らの目から見た公共空間の使い方(市民が自ら空間を獲得する)を提言した。



地域の色彩をテーマにした長井フォーラム



第19期定例総会に合わせて開催したシンポジウム

(6) 公募制プロジェクトの取り組み

ブロック活動の活性化を目的として、積極的に公募制プロジェクトに応募し、新たな活動機会の拡大に努めた。これまで応募したものは、下記の3件である。

○第12期「長井フォーラム」(2003年6月)

「地域のまちづくりを色彩から考える」

- ・山形県長井市を対象として、風土資源を基盤とする色彩作法づくりの活動を実践した。

○第13期「長井ランタンマーケット」(2004年6月)

「灯りのある水辺の賑わい」

- ・山形県長井市を会場として、地域住民との共同による地域資源を活かした夜型イベントを実践した。

○第18期「桑折町プロジェクト」(2009年6月)

「歴史資源を活かした「もてなし」の演出」

- ・福島県桑折町を対象として、町に住む人が楽しみながら提供する「もてなし」の作法を提案した。

いずれの活動も有意義な結果を残しており、当初の目的を十分に達成していると評価する。

(7) 20周年事業の取り組み

東北ブロックの記念事業としては、「古の街道がつなぐ未来の風景」をテーマとした冊子の作成に取り組んでいる。会員が思い入れのある地域を対象として、かつての街道がつないだ多様な文化や今に残る風景を掘り起こし、次世代へつなぐ未来の風景を見出したいと考えている。

2011年3月の巨大地震によって、東北の沿岸部の町は壊滅的な被害を受けた。本格的な復興までは果てしなく長い道程となるが、我々もできる限りの支援を惜しまない。JUDI会員の知識と知恵を結集し、東北復興に力と希望を与えたいと願うものである。



灯りをテーマにしたトークセッション (長井)



桑折町プロジェクト現地調査

東北ブロックの活動経過

期	幹事 (会員数)	年月	活動内容
1期	山崎洋二 (4名)	1992. 4	東北ブロック総会 (宮城)
2期	山崎洋二 (4名)	1992. 11	講演会「都市の成長管理を考える」(宮城)
		1993. 4	東北ブロック総会 (宮城)
3期	山崎洋二 (8名)	1994. 5	東北ブロック総会 (宮城)
			「プランニング塾」3回参加仙台プランナーの会との共催 (宮城)
4期	山崎洋二 (12名)	1995. 5	東北ブロック総会 (宮城)
			「杜の都デザイン会議」4回参加 (宮城)
5期	山崎洋二 (11名)	1995. 10	シンポジウム「九龍城」(宮城)
		1995. 11	エドワード・レルフ氏講演会「場所と都市のアイデンティティ」(宮城)
		1996. 5	シンポジウム「棚倉のまちづくり」(関東・東北ブロック共同事業) 福島
6期	久木田禎一 (17名)		会員拡充活動
7期	久木田禎一 (17名)	1997. 10	都市環境デザインフォーラム IN 盛岡 (岩手)
		1998. 5	東北ブロック総会・セミナー&交流会「弘前のまちづくり」(青森)
8期	久木田禎一 (19名)	1999. 1	セミナー&交流会「中心市街地活性化」(岩手)
		1999. 5	東北ブロック総会・セミナー&交流会「山形市中心市街地」(山形)
9期	久木田禎一 (18名)	1999. 10	セミナー&交流会「都市と住宅を考える」(岩手)
		2000. 5	東北ブロック総会・セミナー&交流会「角館のまちづくり」(秋田)
10期	中居敬一 (17名)	2000. 8	ブロック活動 (岩手)
		2001. 2	北海道 B・合同交流会&フォーラム「黒石こみせ通り」(青森)
11期	中居敬一 (14名)	2002. 2	北海道 B・合同交流会&フォーラム(北海道)
			公共空間利用実態調査公共の色彩を考える会実態調査
12期	斉藤浩治 (14名)	2003. 2	「まちづくりシンポジウム IN 盛岡」後援 (岩手)
		2003. 6	長井フォーラム (公募制プロジェクト事業) 山形
13期	斉藤浩治 (13名)	2004. 5	「元気なまち盛岡」地域再生フォーラム後援 (岩手)
		2004. 6	長井ランタンマーケット (公募制プロジェクト事業) 山形
14期	渡辺敏男 (13名)	2004. 10	盛岡シネマタウン社会実験後援 (岩手)
			まちづくり団体との協力推進事業 (盛岡、長井、江刺)
15期	渡辺敏男 (10名)	2005. 8	盛岡シネマタウン社会実験後援 (岩手)
			まちづくり団体との協力推進事業 (盛岡、長井、江刺)
16期	渡辺敏男 (9名)	2006. 8	岩手県公会堂アートショー後援 (岩手)
			まちづくり団体との協力推進事業 (盛岡、一戸、江刺)
17期	渡辺敏男 (8名)	2007. 7	景観まちづくりフォーラム後援 (岩手)
			まちづくり団体との協力推進事業 (盛岡、一戸、江刺、長井、三春)
18期	斉藤浩治 (8名)	2008. 9	鶴岡シンポジウム (山形)
		2009. 5	会津キャラバン (関東・東北ブロック共同事業) 福島
		2009. 6	桑折町プロジェクト (公募制プロジェクト事業) 福島
19期	斉藤浩治 (6名)	2009. 7	まちづくりシンポジウム「獲得されるパブリック空間」宮城
		2010. 5	三春キャラバン (関東・東北ブロック共同事業) 福島
20期	永松 栄 (6名)	2011. 5	20周年記念事業活動

# 北陸ブロック 20年の歩み

埴 正浩 Rachi Masahiro 株式会社日本海コンサルタント

## 1. JUDI20周年にあたり

20周年を迎え、北陸ブロックの会員数は40名を超える。会員の出入りはありつつも、増加傾向にあるのは、地方ブロックの中でも珍しいという。これも歴代のブロック幹事やメンバーのご尽力、メンバー個々や組織の魅力によるものだと思うが、これまでの北陸ブロックの活動の歩みを振り返りたい。

## 2. 北陸ブロックの活動の歩み

### (1) 活動の初動期

北陸ブロックは、1991年のJUDI発足当初は会員数が少なかったこともあり、しばし休眠状態が続いた。水野一郎氏（金沢工業大学教授）と樋口忠彦氏（新潟大学教授（当時））を中心に、1993年度（第3期）までの会員数は7名（新潟4、富山0、石川2、福井1）であった。

そうした中で、1994年1月に第3回全国ブロック幹事会が金沢で開催されることになったため、それに合わせて北陸ブロック主催で「都市環境デザインフォーラム・金沢」を開催した。全国からJUDIの役員やブロック幹事にお越しいただき、石川県・金沢市の協力を得て、行政や民間企業の専門家・実務者等に参加を呼び掛け、約70名が集まって金沢の都市景観施策について討論し、JUDIの存在を大きくアピールすることができた。

### (2) 活動の本格化

これを機に、フォーラムに参加した中から12名を新会員に迎えて、いよいよブロックでの活動が本格化した。活動内容としては、各県持ち回りで、フォーラムと会員発表会を年1回ずつ開催することを基本とした。

翌年、福井で開催の「地域資源を活かした町づくりのあり方」をテーマとしたフォーラムは、約100名を集める催しとなった。その後も、各都市・各時代に沿ったテーマを設定し、時には北陸新幹線やコンパクトシティなど、北陸に共通するテーマを取り上げ、大小様々な規模でフォーラムやシンポジウム等の開催を続けている。フォーラム等の際には、現地視察などのフィールドワークをできるだけ併催しており、また夜にはもちろん懇親会も開催し、都市環境デザイン談義に花を咲かせている。

会員発表会では、各自の研究や業務、活動の成果を発表し合い、有意義な情報交換の場となっている。また近年は、学生の会員の加入により、研究発表の場を提供する試みも行っている。

### (3) 全国総会の開催

様々な活動や会員による勧誘等により、会員数は徐々に増え、第8期以降は、地方でありながら4県で30人台をキープし、活動もほぼコンスタントに行ってきた。

そこで、長年、関東や関西で行われてきたJUDI定期総会を初めて地方で開催するにあたり、その第1弾として、2006年7月に第16期定例総会が金沢で開かれることとなった。本部の事務局や役員、各委員会と連携しながら、総会やモニターメッセ、発表会、北陸ブロック主催のフォーラム、懇親会、富山市でのライトレールと岩瀬の見学ツアーなど、3日間にわたり盛りだくさんの催しを執り行った。

特に懇親会では、金沢らしいおもてなしをしようと、金沢の伝統芸能である一調一管の演奏でスタートしたり、北陸の地酒コーナーを設けたりして好評をいただいた。



会員による研究発表会



北陸新幹線をテーマとしたフォーラム



第16期定例総会に合わせて開催したフォーラム

(4) 公募制プロジェクトへの取り組み

年に2回の主催行事のみならず、JUDI 公募制プロジェクトに応募し、研究活動にも取り組んできた。

第15、16期には、金沢のメンバーを中心に「市民の目線に立った金沢パブリックアートプロジェクト」、第17期には、福井のメンバーを中心に「街路空間のデザイン検証」をテーマに研究に取り組み、それぞれフォーラムも開催した。

(5) 情報発信の取り組み

北陸ブロック会員相互の情報交流を図るため、1995年より会報「HOKURIKU DOCUMENT」を発行している。また、2005年からは年2回程度「北陸ブロックニュース」を発行し、会員に向けた活動報告を行っている。

さらに、2008年には、会員以外への情報発信も行うため、北陸ブロックのホームページを開設した。内容はまだ十分ではないが、北陸の都市環境デザインを紹介するコーナーなど、徐々に充実を目指している。

(6) 20周年事業の取り組み

JUDI20周年記念事業は、「北前船交易がもたらした“もの”と“こと”ーその現代的意義の検証と再生」をテーマとして研究活動に取り組んでいる。北陸の各地に寄港地や船主の集落があり、住民を交えたワークショップや現地視察、フォーラムなどを行っている。

今後も、多様な専門家集団からなるJUDIのネットワークを活用し、北陸ならではのテーマ、活動に取り組んでいきたい。

最後に、JUDIの初期段階から北陸ブロックの活動を牽引してこられた水野一郎先生をはじめ、各期のブロック幹事の皆様、共に活動を支えているメンバーの皆様、に厚くお礼申し上げます。



公募制プロジェクトでのパブリックアートの評価



住民を交えた意見交換(北前船とまちづくりWS)

北陸ブロックの活動経過

期	幹事 (会員数)	年月	活動内容
1期	水野一郎 樋口忠彦		北陸ブロックの立上げ・体制づくり
2期	水野一郎 (7名)		北陸ブロックの活動内容の検討
3期	水野一郎 (7名)	1994. 1 1994. 1	第3回全国ブロック幹事会(石川) 都市環境デザインフォーラム・金沢
4期	水野一郎 (19名)	1994. 11 1995. 5	フォーラム「地域資源を活かした町づくりのあり方」(福井) 会員発表会
5期	水野一郎 (24名)	1995. 11 1996. 6	シンポジウム「市民が楽しむまち、人々が訪れるまち」(新潟) 会員発表会
6期	樋口忠彦 (25名)	1996. 12 1997. 7	セミナー「コンピュータネットワークシステムを活用した街づくりの可能性」(富山) 会員発表会
7期	樋口忠彦 (25名)	1998. 2 1998. 8	シンポジウム「温泉観光地の景観整備について」(石川) 会員発表会、都市緑化フェアの参加(新潟)
8期	樋口忠彦 (30名)	1999. 1 1999. 5	シンポジウム(福井) 会員発表会(新潟)
9期	樋口忠彦 (33名)	2000. 1 2000. 5	シンポジウム(新潟) 会員発表会
10期	稲葉 実 (34名)	2000. 10	講演会「運河のある町とやまへ」(富山) 研究活動「公共空間利用実態調査」
11期	稲葉 実 (33名)	2001. 10 2002. 11	全国都市緑化フェアいしかわ見学会(石川) 会員発表会(石川)
12期	森 俊偉 (32名)	2002. 11 2003. 2	『日本の都市環境デザイン 2ー北陸・中部・関西編』発行 シンポジウム「都市のあかり」(新潟)
13期	森 俊偉 (32名)	2004. 2 2004. 2 2005. 1	フォーラム「金沢21世紀美術館と都市環境デザイン」(石川) 会員発表会(石川) 会員発表会(石川)
14期	谷 明彦 (32名)	2005. 3 2005. 5	萬代橋とその周辺の景観を考えるシンポジウム(新潟) フォーラム「里山をデザインする」(石川)
15期	谷 明彦 (32名)	2005. 12 2006. 5	フォーラム「北陸における新幹線駅周辺の都市環境デザイン」(福井) 会員発表会(富山)
16期	谷 明彦 (32名)	2006. 7 2006. 7 2007. 2 2007. 5	研究活動「市民の目線に立った金沢パブリックアートプロジェクト」(石川) フォーラム「地域遺産を活かした景観づくりを読む」(石川) 第16期定例総会(石川・富山) セミナー「都市の営みを考える」(新潟) フォーラム「北陸のパブリックアートを考える」(石川)
17期	谷 明彦 (34名)	2007. 11 2008. 5	フォーラム「北陸におけるコンパクトシティの可能性」(富山) フォーラム「街路空間のデザイン」(福井) 研究活動「街路空間のデザイン検証」(福井)
18期	川上洋司 (37名)	2009. 1 2009. 5	フォーラム「街路空間を考える part II」(福井) 萬代橋オープンプラットフォーム(新潟)
19期	川上洋司 (43名)	2009. 11 2010. 5	会員発表会(石川) フォーラム「北陸版コンパクトシティの実現に向けて」(富山)
20期	川上洋司 (41名)	2010. 9 2011. 5	北前船とまちづくりワークショップ(石川) 北前船フォーラム(石川) 研究活動「北前船交易がもたらした“もの”と“こと”ーその現代的意義の検証と再生」

# 関東ブロック 20年の歩み

栗原 裕 Kurihara Yutaka 有限会社ユー・プラネット

## 1. 関東ブロックの活動

毎月一回ブロック幹事と運営委員による運営委員会を開催し「一言サロン」、「キャラバン」、「押しかけリレーセミナー」を中心として活動している。

「一言サロン」は、当初「例会」、「セミナー」等として随時実施していたものを、2003年6月より『JUDI会員等の中から、環境デザインに関わる様々な分野で活躍している人を語り手として迎え、語り手からの話題提供と、語り手と参加者との意見交換を通じ、都市環境デザインの今後について議論を深める』ことを目的としてシリーズ化したものである。

「キャラバン」は、当初「視察会」として随時実施していたものを、2003年3月より『“関東における近代産業の発展と盛衰、その遺構の現状と都市デザイン”をテーマとして、関東の各地域へ出かけ見学すると共に、地元のまちづくり関係者との交流を深める』ことを目的としてシリーズ化したものである。

「押しかけリレーセミナー」は、2002年11月から2004年6月にかけて、研修・研究委員会で7回実施した連続セミナーを、2007年9月より関東ブロックのセミナーとして復活したもので、都市環境デザインの各分野で活躍している JUDI 先輩会員の事務所を訪問し、経験豊富な都市環境デザインに関する話を伺い、都市環境デザイン業務を実施している事務所(仕事の現場)を見学し、JUDI 若手会員の教育と JUDI 先輩会員との交流を深めることを目的としたセミナーである。

## 2. 一言サロン

1992年10月に Barbara Sandrisser 氏を招いて「Beyond Words - 発想における直観の重要性」をテーマに例会を開催したのが始まりで、2002年11月の「会員若手交流企画 第1回」まで39回ほど「例会」、「セミナー」等として開催された。

その後、2003年6月に『オープンスペースについて』と題し、語り手に三田育雄氏、田畑貞寿氏、聞き手に土田旭氏を迎え第1回「一言サロン」を開催してシリーズ化された。



第13回 一言サロン

## 3. キャラバン

1999年6月に関東新発見シリーズ『小江戸佐原』として視察会を実施したのが始まりで、2001年12月の『川辺から歩く・日本橋と神田界限』まで6回ほど「視察会」等として開催された。

その後、2003年3月の第1回『カラクリ人形とノコギリ屋根・桐生』からバスツアーを主体とした「キャラバン」としてシリーズ化された。近年は、12月に「まち歩き+忘年会」も実施している。



足尾キャラバン



三春キャラバン



まち歩き+忘年会「神楽坂散歩」

## 4. 押しかけリレーセミナー

2002年11月から2004年6月まで7回開催して終了した、研修・研究委員会主催の「押しかけリレーセミナー」を関東ブロックで復活させた企画であり、研修・研究委員会後援として実施している。

主に JUDI の若者育成を目的としているが、近年はメーカー担当者の参加も多い。

なお、似たような企画として過去に株式会社山下設計を訪れている。

関東ブロックの活動経過

(凡例) ■:一言サロン、●:キャラバン、★:押しかけリレーセミナー

期	幹事 (会員数)	活動内容
1期	土田 旭 [関東甲信越] (164名)	
2期	岡村勝司 [北関東] 天野光一 [東関東] 伊藤 洋 [南関東] 成瀬恵宏 [西関東] (200名) [見込]	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 第1回例会 1992年10月1日 『Beyond Words - 発想における直観の重要性』 講師: Barbara Sandrisser 氏</li> <li>■ 第2回例会 1992年11月12日 『Euro Disney Resort と Euro-Space - EC 統合下、パリ郊外に投入された景観の意味』 講師: 窪田陽一氏</li> <li>■ 第3回例会 1992年12月14日 『ヨーロッパの河川リゾート』 講師: 天野光一氏</li> <li>■ 第4回例会 1993年1月25日 クロストーク『テーマパーク型街づくり』 講師: 土田旭氏・桜井淳氏・加藤源氏</li> <li>■ 第5回例会 1993年2月17日 『トランプ・シティの都市デザインをめぐる』 講師: 柳田良造氏</li> <li>■ 第6回例会 1993年3月26日 クロストーク『ベルコリーヌはテーマパーク型街づくりか』 講師: 藤本昌也氏・曾根幸一氏・佐藤方俊氏</li> <li>■ 第7回例会 1993年4月28日 『歴史的地区における街づくり』 制度と事例・川越市の景観施策と街づくり 講師: 佐々木政雄氏・加藤忠正氏</li> <li>■ 第8回例会 1993年5月17日 『ハウステンボスの街づくり』 講師: 池田武邦氏</li> </ul>
3期	岡村勝司 天野光一 伊藤 洋 成瀬恵宏 (229名)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 第9回例会 1993年6月16日 『コリーナ矢板、フィオーレ喜連川の自然型宅地開発手法』 ◎榊弘済建物の場合</li> <li>■ 第10回例会 1993年7月7日 『新潟県新大野大橋の設計コンペ』 ◎土木と建築の間で</li> <li>■ 第11回例会 1993年9月10日 『文化財保護と街づくりの共生について』 ◎政策を中心に</li> <li>■ 第12回例会 1993年11月29日 『職能としての都市環境デザインの今日的課題』 ◎会員が話題提供</li> <li>■ 第13回例会 1993年11月29日 『日本におけるランドスケープアーキテクトの現状』 ◎兼、忘年会</li> <li>■ 第14回例会 1994年2月21日 『大規模開発における都市デザインの新しい試み』 ◎榊東急不動産の例</li> <li>■ 第15回例会 1994年5月26日 『景観問題と町おこし』 ◎広島県福山市鞆町と鞆港について</li> </ul>
4期	伊藤 洋 中野恒明 八木健一 横川昇二 (246名)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 第16回例会 1994年7月28日 (参加者22名) 『都市環境デザインと福祉問題』 ◎視覚の場合</li> <li>■ 第17回例会 1994年9月17日 (参加者58名) 『日立駅前地区の都市デザイン事例』 ◎視察会</li> <li>■ 第18回例会 1994年11月28日 (参加者25名) 『造園家の視点、建築家の視点』 ◎シトロエン公園におけるコラボレーション</li> <li>■ 第19回例会 1994年12月15日 (参加者18名) 『忘年懇親会』</li> <li>■ 第20回例会 1995年1月22日 (参加者28名) 『真鶴町まちづくり条例の検証』 ◎視察会</li> <li>■ 特別例会 1995年1月27日 『アーバンクリエーション95』 ◎テーマトーク - 景観と環境 -</li> <li>■ 第21回例会 1995年4月25日 (参加者21名) 『デザイン監理』</li> <li>■ 第22回例会 1995年5月20日 (参加者73名) 『隅田川、東京港の景観』 ◎水上フォーラム</li> </ul>
5期	伊藤 洋 中野恒明 八木健一 横川昇二 (257名)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 第1回例会 1995年10月13日 『防災都市とオープンスペース』</li> <li>■ 第2回例会 1995年11月9日 『交通弱者からみた都市空間のデザイン』</li> <li>■ 第3回例会 1995年12月13日 『忘年懇親会』</li> <li>■ 第4回例会 1996年1月27日 『パブリックアート立川』 ◎視察会</li> <li>■ 第5回例会 1996年4月18日 『都市環境デザインにおける知的所有権』</li> <li>■ 第6回例会 1996年5月18日 『棚倉・白河の都市環境デザイン』 ◎関東・東北交流視察会 (1泊2日)</li> </ul>
6期	西村幸夫 峰岸久雄 八木健一 横川昇二 (260名)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 第1回例会 1996年9月30日 『ユニバーサルデザインに向けて』 語り手: 川内美彦氏・和田淳氏・佐藤博子氏 聞き手: 長瀬光市氏</li> <li>■ 第2回例会 1996年11月30日 『幕張ベイタウンの経過・現状・今後の課題』 語り手: 土田旭氏・河合良樹氏・大行征氏・元倉真琴氏 説明: 石渡正行氏 聞き手: 中野恒明氏</li> <li>■ 第3回例会 1996年12月6日 交流会『東京の夜景・照明をみながら』 語り手: 面出薫氏・東海林弘靖氏</li> <li>■ 第4回例会 1997年3月15日 『都市とアート-超芸術発見からの視点-』 語り手: 藤森照信氏・真壁智治氏 聞き手: 横川昇二氏</li> <li>■ 第5回例会 1997年5月31日 『城下町と都市環境デザイン』 ◎ブロック間交流会</li> </ul>

7期	中井川正道 峰岸久雄 八木健一 横川昇二 (272名)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■懇親例会 1997年12月6日 『都市公園の課題と展望』・『今後の活動を考える』 語り手：樋渡達也氏(ランドスケープアーキテクト)</li> </ul>
8期	作山 康 地福由紀 中井川正道 峰岸久雄 (258名)	
9期	植本俊介 作山 康 須永淑子 地福由紀 (255名)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●視察会 1999年6月 (参加者24名) 関東新発見シリーズ『小江戸佐原』</li> <li>●視察会 1999年7月 (参加者：JUDI関係60名・地元関係2名) 『谷中・千駄木・根津』</li> <li>■セミナー 1999年10月 (参加者20名) 『日本におけるPFIの可能性と展望』</li> <li>●懇親例会 1999年12月 (参加者17名) 『荒川都電に乗って下町巡り』</li> </ul>
10期	植本俊介 作山 康 須永淑子 地福由紀 (247名)	
11期	植本俊介 作山 康 須永淑子 地福由紀 (244名)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●視察会 2001年7月 (参加者30名) 『横浜・公共空間の多目的活用事例から学ぶ』</li> <li>■セミナー 2001年10月 (参加者7名) 『コミュニティバス・ブームを探る』 語り手：戸田市役所職員</li> <li>●懇親例会 2001年12月 (参加者25名) 『川辺から歩く・日本橋と神田界限』</li> </ul>
12期	小浪博英 須永淑子 横川昇二 高見公雄 (224名)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■若手交流企画 2002年11月 『会員若手交流企画 第1回』</li> <li>●懇親例会+忘年会 2002年12月7日 (参加者18名) 『東海道品川宿界隈散歩-いま・むかし』</li> <li>●第1回キャラバン 2003年3月1日 (参加者：JUDI関係14名・地元関係18名) 『カラクリ人形とノコギリ屋根・桐生』</li> <li>●第2回キャラバン 2003年5月17日 (参加者：JUDI関係28名・地元関係12名) 『水辺の産業と運河』[野田市]</li> </ul>
13期	小浪博英 須永淑子 横川昇二 高見公雄 (216名)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■第1回一言サロン 2003年6月10日 『オープンスペースについて』 語り手：三田育雄氏・田畑貞寿氏 聞き手：土田旭氏</li> <li>●第3回キャラバン 2003年7月6日 (参加者27名) 『東京2003(問題)バスツアー』</li> <li>■第2回一言サロン 2003年9月24日 『住民による住民のためのデザインは可能か』 語り手：林泰義氏・長島孝一氏 聞き手：加藤源氏</li> <li>●第4回キャラバン 2003年11月18日 (参加者：JUDI関係13名・地元関係7名) 『山梨県・勝沼ぶどう郷の風景考』</li> <li>●懇親例会+忘年会 2003年12月7日 『千住』</li> <li>■第3回一言サロン 2004年3月16日 『20世紀デザインの功罪』 語り手：曾根幸一氏・佐野寛氏 聞き手：土田旭氏</li> </ul>
14期	小浪博英 山名清郷 山川良子 高見公雄 (210名)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■第4回一言サロン 2004年6月15日 『ランドスケープデザインのこれまでとこれから』 語り手：上山良子氏・佐々木政雄氏 聞き手：八木健一氏</li> <li>●第5回キャラバン 2004年7月19日 (参加者：JUDI関係46名・地元関係2名) 『川崎臨海部(都市再生)バスツアー』</li> <li>●第6回キャラバン 2004年10月23日 (参加者：JUDI関係24名・地元関係14名) 『「企業城下町・日立」の将来を語るセッション』</li> <li>■第5回一言サロン 2004年11月25日 『環境色彩デザインの現在とこれから』 語り手：吉田慎悟氏・松井英明氏・杉山朗子氏 聞き手：横川昇二氏</li> <li>●懇親例会+忘年会 2004年12月11日 『日本橋川』</li> <li>■第6回一言サロン 2005年4月22日 『観光地の景観デザイン』 語り手：下村彰男氏・松園俊志氏・安島博幸氏 聞き手：小浪博英氏</li> </ul>
15期	小浪博英 山名清郷 山川良子 高見公雄 (204名)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■第7回一言サロン 2005年6月15日 『都市空間のアートとデザイン』 語り手：関根伸夫氏・北川フラム氏 聞き手：曾根幸一氏</li> <li>●第7回キャラバン 2005年11月5日 (参加者：JUDI関係18名・地元関係20名) 『富岡製糸場と生糸づくりの街並みを訪ねる』</li> <li>●懇親例会+忘年会 2005年12月10日 『人形町』</li> </ul>
16期	屋代雅充 府川 充 山川良子 栗原 裕 (196名)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■第8回一言サロン 2006年10月26日 『日本の街を美しくする』 語り手：柴田知彦氏・田島泰氏 聞き手：屋代雅充氏</li> <li>●第8回キャラバン 2006年11月25日 (参加者：JUDI関係16名・地元関係1名) 『足尾銅山の産業遺構と街並みを訪ねる』</li> <li>●まち歩き+忘年会 2006年12月16日 『文京の坂めぐり』</li> <li>■第9回一言サロン 2007年5月29日 『都市のあかりと景観』 語り手：近田玲子氏・面出薫氏 聞き手：横川昇二氏</li> </ul>



17 期	屋代雅充 府川 充 山川良子 栗原 裕 (182名)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第9回キャラバン 2007年6月9日 (参加者: JUDI 関係23名・地元関係6名) 『横須賀の産業遺構と街並みを訪ねる』</li> <li>★視察会 2002年7月14日 (参加者33名) ◎株式会社山下設計 [建築設計]</li> <li>★復活第1回 2007年9月27日 (参加者10名) ◎近田玲子氏 [照明デザイナー]</li> <li>■第10回一言サロン 2007年10月2日 (参加者26名) 『リバーフロントの都市デザイン』 語り手: 松田芳夫氏・守谷慎一郎氏 聞き手: 須永倅子氏</li> <li>■第11回一言サロン 2007年11月26日 (参加者20名) 『ウォーターフロントの都市デザイン』 語り手: 横内憲久氏・前田俊寛氏 聞き手: 須永倅子氏 コメントータ: 土田旭氏</li> <li>●まち歩き+忘年会 2007年12月8日 (参加者: JUDI 関係29名・案内人2名) 『歴史と文化の街 神楽坂散歩』</li> <li>●第10回キャラバン 2008年4月12日 (参加者: JUDI 関係18名・地元関係11名) 『桃の花香る勝沼を再訪』</li> <li>★復活第2回 2008年4月24日 (参加者10名) ◎中村豊四郎氏 [インダストリアル・デザイナー]</li> <li>★復活第3回 2008年5月29日 (参加者7名) ◎菅孝能氏 [都市デザイナー]</li> </ul>
18 期	屋代雅充 府川 充 峰岸久雄 栗原 裕 (175名)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●まち歩き+忘年会 2008年12月6日 (参加者: JUDI 関係24名・案内人1名) 『変わるまち、変わらぬまち—上野・浅草』</li> <li>★復活第5回 2008年12月19日 (参加者7名) ◎伊藤登氏+岡田一天氏 [ランドスケープデザイナー]</li> <li>■第12回一言サロン 2009年1月5日 (参加者39名) 『都市空間のリノベーション』 語り手: 大谷京子氏・工藤安代氏・加藤源氏 聞き手: 横川昇二氏</li> <li>★復活第4回 2009年2月7日 (参加者10名) ◎井上洋司氏 [登録ランドスケープアーキテクト]</li> <li>■臨時開催一言サロン 2009年2月13日 (参加者15名) 『北京の都市デザインについて』 語り手: 呂斌氏 (北京大学教授)</li> <li>★復活第6回 2009年4月17日 (参加者11名) ◎南條洋雄氏 [都市デザイナー・建築家]</li> <li>●第11回キャラバン 2009年5月9日 (参加者: JUDI 関係24名・地元関係6名) 『江戸・明治・大正・昭和の各時代を感じる東北固有の文化と気質の城下町』 [会津若松市] ※東北ブロック共催・オプション1泊</li> <li>★復活第7回 2009年5月22日 (参加者16名) ◎高見公雄氏 [都市計画家]</li> </ul> <div data-bbox="1123 689 1528 1025" style="text-align: right;">  </div> <p style="text-align: right;">会津キャラバン</p>
19 期	屋代雅充 府川 充 峰岸久雄 栗原 裕 (148名)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■特別企画一言サロン 2009年6月27日 (参加者50名) 『築地市場が担うもの、目指すもの』 語り手: 森本博行氏・落合庸人氏 聞き手: 加藤源氏</li> <li>■第13回一言サロン 2009年11月24日 (参加者37名) 『どこへ行く 土木デザイン』 語り手: 窪田陽一氏・天野光一氏 聞き手: 高見公雄氏</li> <li>●第12回キャラバン 2009年12月5日 (参加者: JUDI 関係12名・地元関係6名) 『天竜キャラバン』 ※中部ブロック共催・1泊</li> <li>●まち歩き+忘年会 2009年12月19日 (参加者: JUDI 関係23名・案内人1名) 『寅さんの愛した 柴又散歩』</li> <li>★復活第8回 2010年2月5日 (参加者15名) ◎長濱龍一郎氏 [デジタルまちづくりすと]</li> <li>●第13回キャラバン 2010年5月15日 (参加者: JUDI 関係13名・地元関係4名) 『三春キャラバン 歴史の香る小さな城下町と都市環境デザイン』 ※東北ブロック共催・オプション1泊</li> </ul>
20 期	峰岸久雄 飯泉朋子 紺野恭司 飯田とわ (148名)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第14回キャラバン 2010年9月18日 (参加者: JUDI 関係22名・地元関係3名) 『大谷キャラバン』</li> <li>★復活第9回 2010年10月29日 (参加者11名) ◎横川昇二氏 [環境デザイナー]</li> <li>●まち歩き+忘年会 2010年12月18日 (参加者: JUDI 関係47名・案内人2名) 『変わりゆく商人の街 日本橋散歩』</li> <li>■第14回一言サロン 2011年2月25日 (参加者34名) 『都市デザインでの あかりの力』 語り手: 富田泰行氏・長町志穂氏 聞き手: 中津川正道氏</li> <li>★復活第10回 2011年5月25日 (参加者12名) ◎香山壽夫氏 [建築家]</li> <li>●被災地視察 2011年6月11日 (参加者24名) 『今後の復興計画及びまちづくりを考える為の被災地視察—飯岡(千葉県旭市)・佐原(千葉県香取市)』</li> <li>●TDA景観講座共催 2011年6月19日 (参加者: JUDI 関係18名・地元関係4名) 『松本キャラバン』</li> </ul>

# 中部ブロック 20年の歩み

谷口庄一 Taniguchi Shoichi 株式会社リージョナルブレインズ

## 1. 中部ブロック活動の歩み

### (1) 初期活動期

中部ブロックの活動当初は、森延彦氏（静岡県）、林英光氏（愛知県芸術大学）、井上善朗氏（静岡県）らが中心となって、静岡県と名古屋市を活動拠点とする会員が集まり、第1期26名、第2期34名でスタートした。活動は会員のバランスを考え、静岡県と名古屋市で交互に開催され、静岡県内で見学会、名古屋市ではJUDIの広報を兼ねたシンポジウムが主に企画された。

第4期よりブロック幹事は玉木伸秀氏（㈱景観工学研究所）となり、第5期には会員数が43名に至るまでとなった。この時期も、静岡県と愛知県での交互開催が続いた。第4期には、名古屋市を出て岐阜県白川村への見学会も開催され、岐阜県会員獲得も試みるようになった。

### (2) 活動展開期

第6期からブロック幹事は澤田晴委智郎氏（㈱澤田造景研究所）となり、新たな試みとして各月に「JUDIサロン」を開催した。JUDIサロンは、都市・環境・デザインに関わるゲストを招き、20名ほどの参加者とトークセッションを行うものであった。

JUDIサロンは第8期までの3年間で13回開催された。この時期に会員数は44名となっていたが、行政関係者や静岡県関係者の参加が減少しており、静岡県会員と名古屋市を中心とした会員間の交流方策について議論が続けられた。

第10期よりブロック幹事は繁野舜氏（㈱US計画研究所）となり、JUDIサロンに代わるものとして現地見学を中心とした「都市環境デザインセミナー」を始めた。基本テーマは「ヴァナキュラーを探る」であり、名古屋市からバスで静岡県まで移動しての見学会も企画された。「都市環境デザインセミナー」は現在も続けられ、今年で10回を迎えた。会員外参加者も増加傾向にあるが、新規会員につながっていないのが課題となっている。

第14期よりブロック幹事は集山一廣氏（㈱竹中工務店）となり、「都市環境デザインセミナー」の一層の充実を図ることとなった。また、名古屋市“広小路ルネッサンスワークショップ”など、まちづくりに関するワークショップへ積極的に参加を促し、会員が外部のまちづくりデザインに関与する機会を拡大するに至った。

第18期よりブロック幹事は谷口庄一（㈱リージョナルブレインズ）となり、「都市環境デザインセミナー」に加えて、「なごや環境大学共育講座」の開催、生物多様性COP10やアースデイへの出展など、環境分野にお

ける企画などを拡大させた。

第20期では20周年記念事業の一環として、カナダより「ゲリラガーデニング」や「コミュニティガーデン」の著書や実践を行っているDavid Tracey氏を招き、3回のトークセッションと2回の菜園ワークショップを開催した。



第1回 JUDI セミナー 清水港



第2回 JUDI セミナー 杉浦千畝記念館



第3回 JUDI セミナー 六華苑・七里の渡し



第7回 JUDI セミナー 愛知万博記念公園

## 2. 中部ブロック活動の今後

中部ブロックでは、設立当初は「都市環境デザイン」に関わる専門家の親睦会の意味合いを濃くした運営を行ってきた。この目的はある程度達成されたと思われるが、外部に開かれた運営ではなかった。

そこで、活動展開期においては、外部へ開いた会の運営を目指したことで一定の成果を得た。しかし、その結果既存の会員の減少を招くことになった事は否定できない。

会員外の参加機会を拡大させたことで、全体としての参加者数は増加傾向にある。「都市環境デザインセミナー」では、街歩き企画などでは50名近い参加があった。

「都市」における「環境」と「デザイン」に関する意識の高まりを背景に、自分の街を知ろう、まちづくりに関わろうという人たちが増加しているにも関わらず、中部地方ではこういったセミナーや講習会などがほとんど開催されなくなっている現状に加え、受け皿がないという事に起因しているものと考えられる。

一方で会員数の減少に歯止めが掛からず、第20期には20名を割るまでになってしまった。セミナー参加者の多くは「学ぶ」という受動的な立ち位置を受容しており、「JUDI 会員」は特別な専門家であるという意識があり、自身が会員となるような組織ではないと思われる節がある。

今後は中部ブロック主催のセミナーなどに参加された方々を会員へと導く方策を検討することが必要である。特に、若い会員獲得を図るとともに、一般参加の方々を会員とするような魅力的なブロック運営を行っていきたい。



第9回 JUDI セミナー 岐阜市城下町を歩く



第10回 JUDI セミナー 20周年記念事業

## 中部ブロックの活動経過

期	幹事 (会員数)	年月	活動内容
1期	森 延彦 (26名)	1991. 8	第1回例会(活動方針の確認 静岡市、浜松市のガイドプラン等の事例紹介参加20名)
		1991.10	第2回例会(名古屋市の都市計画の現状について事例紹介及び討議 今後の活動方針について確認)
2期	森 延彦 (34名)	1992. 9 1993. 4	現地見学会と例会を開催
		1992.11	国際パブリックデザインフェア名古屋92に協賛し、「都市環境デザインフォーラム・中部」を開催
3期	森 延彦 (38名)	1993.11	展示会及びシンポジウム～都市のヴァリアンス
		1994. 4	静岡県立美術館・静清土地区画整理地区見学会
4期	玉木伸秀 (38名)	1994.11	「国際パブリックデザインフェア NAGOYA' 94」パネル出展
		1994.11	名港三大橋海上見学会
		1995. 5	JUDI あすまちセッション1st 白川村
5期	玉木伸秀 (43名)	1995.10	静岡のビオトープ事例視察
		1996. 4	シンポジウム「名古屋城本丸御殿再建と都市デザイン」
6期	澤田晴委智郎 (44名)		第1回～第3回 JUDI サロン(計3回開催)
7期	澤田晴委智郎 (44名)		第4回～第11回 JUDI サロン(計8回開催)
8期	澤田晴委智郎 (42名)	1998. 9	第12回 JUDI サロン
		1998.11	第13回 JUDI サロン
		1998.12	JUDI シンポジウム「都市環境におけるヴァナキュラーの展開」
9期	澤田晴委智郎 (42名)	1999. 9	中部ブロック総会
		1999.11	都市環境デザインにおけるヴァナキュラーの展開そのII
10期	繁野 舜 (43名)	2000.11	第1回都市環境デザインセミナー 公共空間に関する調査
11期	繁野 舜 (42名)	2001. 6	第2回都市環境デザインセミナー
		2002. 5	第3回都市環境デザインセミナー
12期	繁野 舜 (42名)	2002. 7	中部ブロック総会
			企画会議(5回)
13期	繁野 舜 (34名)		運営企画会議(3回)
14期	集山一廣 (30名)	2004. 9	第4回都市環境デザインセミナー
		2004.10	I T S 世界会議・都市デザインと I T S 社会シンポジウム
15期	集山一廣 (27名)	2005. 6	第5回都市環境デザインセミナー
		2006. 5	第6回都市環境デザインセミナー 名古屋市“広小路ルネッサンスワークショップ”参画
16期	集山一廣 (27名)	2007. 5	第7回都市環境デザインセミナー 中部ブロックホームページの開設
17期	集山一廣 (23名)	2007. 7	デザインフォーラム in 中部 2007
		2008. 4	第8回都市環境デザインセミナー
		2008. 4	アースデイ愛知 2008 出展
18期	谷口庄一 (23名)	2008. 6	第9回都市環境デザインセミナー
		2008.11	名古屋都市センター主催研究会参加
		2009. 4	アースデイ尾張木曾川 2009 出展
		2009. 4	北勢線の魅力を語る後援
		2009. 4 2009. 6	なごや環境大学共育講座開講
19期	谷口庄一 (21名)	2009. 9	なごや環境大学共育講座開講
		2009.11	なごや環境大学共育講座開講
		2010. 1	アースデイ尾張木曾川 2010 出展
		2010. 4	北勢線の魅力を語る後援
20期	谷口庄一 (19名)	2010.10	第10回都市環境デザインセミナー
		2010.10	JUDI セミナー“しあわせな風景×まちなか居住”
		2010.10	生物多様性条約 COP10 ブース出展
		2011. 4	アースデイ尾張木曾川 2011 出展
		2011. 4	北勢線の魅力を語る後援

# 関西ブロック 20 年の歩み

角野幸博 Kadono Yukihiro 関西学院大学総合政策学部都市政策学科

## 1. 関西ブロックの概要

### (1) 沿革

関西ブロックの歴史は都市環境デザイン会議(JUDI)の歴史とともにある。1989年に設立準備会が東京と大阪で続けて開催され、様々な準備作業を経て、1991年5月にJUDIは誕生した。以来関西ブロックは、都市環境デザインフォーラムや都市環境デザインセミナー、国際セミナーをはじめ、様々な活動を続けてきた。

この間、京都市と広島県に意見書を提出する等、社会に対する発言、提案も行った。さらに阪神・淡路大震災(1995年2月)の復興過程では、都市デザインの専門家団体として、被災地の各所で行動した。また出版社に勤務する会員の献身的活動によって、ホームページでの情報発信や出版も活発に行ってきた。

### (2) 会員数と歴代幹事

会員数は、この10年間おおむね100名強で推移している。構成内訳はコンサルタントが約半数、大学教員が3割弱、メーカー・企業勤務が2割弱、官公庁とその他がそれぞれ5%程度である。正確な統計は取って

いないが、近年は平均年齢の上昇を実感する。会員数の増加と若手会員の加入は、関西ブロックにとっても大きなテーマである。

なお歴代幹事は、学会等とは異なるスタンスを示すため、実務家が務めることが望ましいものの、大学に所属するものが幹事を務めることもあった。

次節以降では活動の柱ごとにその概要を紹介する。

## 2. 都市環境デザインフォーラム関西

設立以来、原則として毎年1回、都市環境デザインフォーラム関西を実施してきた。回ごとに委員会を立ち上げて、会員及び社会的関心の高いテーマを決め、約半年間の準備を経て開催している。会員、学生そして一般の参加を得て、ゲスト講演や会員による報告と討論を行うほか、会員からの投稿を集めた小冊子を原則として毎回発行してきた。会員企業からの経済的な支援もお願いした。

表1は初回以来のテーマを示したものである。JUDI関西の歴史は、バブル経済の崩壊とともに始まったが、

表1 初回以来のフォーラムテーマ

回	年度	ブロック幹事	フォーラムテーマ	開催場所	実行委員長
第1回	1992	井口勝文	関西は今	大阪ビジネスパーク	鳴海邦碩
第2回	1993	井口勝文	田園と自然を考える	人と自然の博物館	宮前洋一 江川直樹 中瀬 勲
第3回	1994	大塚守康	土木と環境デザイン	けいはんなプラザ	榊原和彦
第4回	1995	江川直樹	まちとアイデンティティ	兵庫県民会館	材野博司
第5回	1996	井口勝文	都心居住の環境デザイン	一心シアター	田端 修
第6回	1997	土橋正彦	仮想世界の誘惑	O C A T	丸茂弘幸
第7回	1998	長谷川弘直	大地への取り組み	花博記念公園鶴見緑地	増田 昇
第8回	1999	長谷川弘直	参加型都市環境デザインをさぐる	こうべまちづくり会館	小林郁雄
第9回	2000	森重和久	環境共生型都市デザインの世界	大津市市民会館	山崎正史
第10回	2001	森重和久	街の遺伝子	綿業会館	小浦久子
第11回	2002	堀口浩司	かたちと関係の風景デザイン	大阪歴史博物館	松久喜樹
第12回	2003	堀口浩司	都市環境デザインのファッションとモード	アクセスホール	角野幸博
第13回	2004	宮前保子	歴史と向き合う街とは、癒しの風景とは	田辺市 鬮鶏神社	長谷川弘直
第14回	2005	宮前保子	都心のまちづくり、その担い手	アクセスホール	岸田文夫 篠原 祥 中村信之 高原浩之 長町志穂
第15回	2006	千葉桂司	デザインの力	大阪技術センター	
第16回	2007	千葉桂司	都市観光の新しい形	岸和田市職員会館	金澤成保
第17回	2008	金澤成保	京都の景観はよくなるか!?	ひと・まち交流館 京都	藤本英子
第18回	2009 (2010開催)	金澤成保	都市環境デザインの仕事の展開とその未来 —JUDI 関西の軌跡を振り返って—	大阪産業大学梅田 サテライト	鳴海邦碩
第19回	2010 (2011開催)	角野幸博	東日本大震災と JUDI 関西 —20年間の活動と新しい地域空間の 再生にむけて	中央電気倶楽部	堀口浩司

取り上げてきたテーマは、社会の関心の変化と都市環境デザインの活動領域の変化に敏感に対応していることがわかる。

初期においては、自然や田園地域への関心、環境との調和がテーマとして取り上げられた。1995年の阪神・淡路大震災の年は、復旧・復興の途上にある神戸で開催した。その後数年は、都心居住、参加型デザイン、環境共生など、震災復興においてもキーワードとなるテーマが取り上げられた。21世紀に入ると、他の領域の造形デザインとの関係性を問うテーマにも取り組んだ。また景観法の施行に合わせたテーマや、担い手論、観光なども取り上げるようになった。

開催場所は大阪が多かったものの、関西ブロックの特性を反映して、京都や神戸のほか、大津や岸和田でも開催した。ちなみに2011年は奈良での開催となった。

またフォーラムに合わせて、会員が撮影した写真のコンテストを継続開催した時期もあった。



写真1 過去のフォーラムポスターの例(第12)



写真2 過去のフォーラム風景(京都)



写真3 過去のフォーラムで発行した小冊子

### 3. 都市環境デザインセミナー

毎月1回の定例セミナーである。1992年より始めて、約180回を数える。平日の夜間、大阪での開催を原則とするが、京都等に会場を移すこともある。

毎回、会員あるいは外部専門家を講師として招き、20~40名が参加し議論する。関西ブロックの日常活動の根幹に位置づけられるものである。内容は随時ホームページで公開するほか、現在電子出版化を進めつつある。最近では動画での配信も実験的に開始した。

表2は最近1年間の開催実績である。テーマをただで、都市環境デザインの関心領域の変遷をビビッドに感じ取ることができる。平成21年度には、実験的に実務家育成を意識したプログラムも実施した。

運営は独立採算制を原則とし、会員と学生は500円、学生を除く非会員は1000円を資料代としていただいている。テーマによっては、会員よりも非会員の参加者数が多い場合もある。学生の参加も積極的に呼び掛けており、学外セミナーとしても機能している。セミナー後の懇親会はさらに貴重な情報交換の場である。

表2 最近の都市環境デザインセミナー

月日	タイトル	講師
2010年 1月30日	二人のデザイナーが語る「街のあかり」	内原智史 長町志穂
2月25日	都市の自由空間	鳴海邦碩
3月26日	伝建地区まちづくりの新段階-その現状と課題	増井正哉
4月24日	都市プランナー、コンサルタントの育ち方	堀口浩司
5月16日	地域に学ぶ景観まちづくりの作法: 京都景観スタディ報告	中村伸之 藤本英子他
7月21日	「和」の都市デザインはありうか: 「和風敷地」の都市に「洋風建築」を 納める作法	田端修
8月20日	ハウスメーカーのつくる住まいの風景	小浦久子 山中秀実
9月30日	向ヶ丘第一団地ストック再生実証試験: 団地リノベーションの時代を迎えて	中田誠 星田逸郎
10月15日	生物多様性とまちづくり:ニュージー ランドの環境緑化	林まゆみ
12月2日	建築群の再生マネジメント技術:大学 キャンパスを事例に	若本和仁
12月25日	イタリアの都市から学ぶ日本の都市 へのメッセージ:JUDI海外セミナー を踏まえて	難波健 井口勝文他
2011年 2月19日	景観・まちづくりによる地方都市中心 市街地再生の取組み:敦賀中心市街地 を事例に	西斗志夫 内村雄二
4月2日	西宮市まちなみ発見クラブの活動と 浜甲子園さくら街(建替1期)	永田 実 江川直樹
5月6日	平福の洪水と歴史的環境の回復	八木雅夫 田野万治郎 豊嶋慎治 長田二郎 吉田文男

#### 4. 国際交流セミナー

海外の都市環境デザイン情報や活動に関する現地視察と、当地の行政・大学・企業等との交流を目的に、毎年世界の諸都市を訪れている。単なる視察旅行にとどまらず、相互に発表・意見交換を行う。

セミナー開催の数日間をコア日程として団体行動する一方、現地集合現地解散を原則とするため、コア日程の前後には、参加者が自由に周辺諸都市を訪問しており、その情報を交換できることも大きな魅力と認識されている。

訪問先は 1997 年のイタリアセミナー（メルカテッロ）に始まり、世界各地に広がる。2009 年のセミナーでは再びメルカテッロを訪れて旧交を温めるとともに、アグリツーリズモをはじめ新たなテーマにも取り組むことができた。訪問地の選定にあたっては、会員の幅広いネットワークを活用し、関西の大学への留学経験

がある現地研究者に仲介を願ってきたことも多い。

表 3 は今までの訪問先と主な目的の一覧である。現地での活動報告は、会員である難波健氏の尽力によって、インターネットで公開されている。

#### 5. 社会的実践活動

会員はそれぞれの立場で日常実務を行っているが、時として会員の共同作業としての実践活動や社会活動を行うこともある。

たとえば大阪水都再生計画では、その目玉事業である“水辺の回廊”道頓堀リバーウォーク計画とデザイン監修を行った（平成 15～17 年）。幅員約 35 メートルの道頓堀川に計画された遊歩道に対して、石畳とボードウォークの上下 2 断面構造の提案や、太左右衛門橋・新戎橋・相合橋の改修提案など様々な提案を行い、実現に結びつけた。

また京都市に対して、2 回の意見書提出を行った。1 回目は、1997 年 10 月、鴨川をまたぐ三条大橋と四条大橋の間にパリの芸術橋を映した歩行者専用橋を架けようとしたことに対する危惧を示したものである。2 回目は、2006 年に提出した京都市の新景観政策に関する意見書である。専門家集団としての立場から、景観基準の策定等検討課題はあるものの、わが国の景観政策の先導的モデルとして京都市の姿勢を支持し、今後の期待をこめて意見をまとめた。都市景観についての会員の関心はきわめて高く、その後も、一部の会員が「京都景観ケーススタディ」を継続実施している。

さらに 2008 年には広島県に対して、中国・四国ブロックと共同で、「鞆の浦」の埋め立て架橋計画に対するアピールを提出した。

#### 6. 出版

フォーラムに際して発行してきた小冊子とは別に、会員有志が複数の市販書を公刊している。たとえば 1995 年に出版した『都市環境デザイン—13 人が語る理論と実践』は、関西ブロックの会員の体験をふまえて都市環境デザインの考え方を解き明かしたものである。また、2001 年に出版した『都市環境デザインの仕事』は、都市環境デザインの仕事内容を、その職能を志す若者たちに紹介したものである。2008 年の『都市の魅力アップ』にも、関西ブロックの会員が関わっている。その他、研究者はもちろん実務家の会員たちも、活動の成果を出版に結び付けた例が少なくない。

#### 7. 新しい職能の模索

社会環境の変化に伴い、都市環境デザインの仕事も変化を余儀なくされる。公共事業の見直しあるいは縮小によって従来の業務が縮小する一方、既存ストックの活用や地域マネジメントへの期待、市民参加におけるファシリテーターとしてのニーズの増大などがある。

こうした新たな状況を受けて、都市環境デザインが

表 3 今までの国際交流セミナー

年度	主な訪問先	主な活動	コア日程参加者数
1997	イタリア (メルカテッロ他)	巨大都市時代における地方の可能性(メルカテッロにてセミナーなど)	26名
1998	インドネシア (ジョグジャカルタ)	都市における歴史的環境の保存 ガジャマダ大学交流	14名
1999	ブラジル (ロンドリーナ、クリチバ他)	ロンドリーナ JUDI=IBA フォーラム開催 クリチバ市都市環境政策ヒアリング	10名
2000	タイ (バンコク)	ほほえみの国「タイ」の水上市探訪 JAICA 等交流	12名
2001	フィンランド (ヘルシンキ)	ヘルシンキ市都市計画課交流 ニュータウン視察	17名
2002	中国 (上海周辺)	市内再開発視察 江南水郷地帯視察	17名
2003	韓国(テグ)	21世紀都市デザインの課題:大邱都市デザイン研究会(DUDI)設立記念シンポジウム	14名
2004	ベトナム (ハノイ)	ハノイへの提言(ハノイ都市計画開発学会交流)	16名
2005	ブータン	日本の原風景を探る—ブータンに学ぶ(JAICA 駐在員交流)	4名
2006	ドイツ国境 (アイゼンハッテンシュタット他)	シュリンゲンプログラムをテーマにアイゼンハッテンシュタット市都市開発文化部と交流	3名
2007	メキシコ (メキシコシティ他)	メキシコの建築デザインと文化風土 ガラパン、フリー・ダ・カーロらの作品	7名
2008	韓国 (ソウル、安養、スウォン)	韓国の都市環境デザインに学ぶ(京畿都市公社と交流セミナー開催)	12名
2009	イタリア (メルカテッロ他)	12年ぶりに訪れる井口邸の新たな魅力と町の変化、その根底にあるイタリアの都市の魅力を探る(メルカテッロの都市計画セミナー・レセプション等)	20名
2010	中国(上海他)	都心再開発例、住宅地開発事例視察 現地日本企業との交流	8名

いかにあるべきかを見いだすために、これまでの仕事を振り返る作業を行った。2010年5月の第18回フォーラムでは、「都市環境デザインの仕事の展開—JUDI関西会員の仕事を振り返って」をテーマとして取り上げた。フォーラムに先だって、会員が取り組んできた業務紹介を依頼したところ、43名の会員から125件の取り組み事例が提出され、これをフォーラム資料とした。

さらにその成果をふまえ、20周年となる2011年度には、取り組んできた仕事内容を整理し、『JUDIKANSAI 仕事の軌跡と展望』として出版、全国の会員に配布することとした。

## 8. 今後の展望

この20年間の関西ブロックの活動成果は、鳴海邦碩大阪大学名誉教授をはじめ、JUDI設立メンバーの強力なリーダーシップによるところが大きい。設立当時の会員は、その多くが今も熱心に活動を続けている。今までの成果をふまえ、次の20年を展望するために、管見ではあるが、現在の関西ブロックがかかえる課題と今後の展望について述べさせていただく。

第1は、世代交代と新規会員の参加についてである。関西ブロックの会員数は冒頭で記したとおり100名程度を維持してきた。しかしながら多くの組織の趨勢と同様、平均年齢の上昇が続いている。また価値観や行動規範が良く似た会員が主流となっており、異なる価値観をもつ会員間の、良い意味での論争がなされにくくなりつつある。組織にとって同質化は居心地が良い半面、新しいデザインや新しい理論の開発を滞らせることにつながる。異質な要素を常に取り込み、若手会員の活動のモチベーションを高め、新会員の増加を図るのが重要である。そのためには、今まで以上に大学生や大学院生を含む若手が主導的に活動できるプログラム開発を進めたい。

第2は、諸学会をはじめ関係する組織の活動との差別化と役割分担をより意識することである。会員の多くは、都市計画学会や建築学会、造園学会等にも活動の場を有している。いずれも日常活動の発表や情報交換の場として貴重であり、組織ごとに関わり方を変えることは難しいが、JUDIという職能団体固有の社会的存在意義を再確認したうえで、他団体との連携を目指す必要がある。産学官のインフォーマルなネットワークの構築も重要と考える。

第3は、ビジネス環境と期待される役割の変化を十分に理解して、新たな職能や活躍の場を我々自ら開拓していくことである。たとえば地方分権化や国際化の波は、会員の活動の場にも大きな影響を及ぼしている。会員の中には、中国をはじめ海外での仕事を強化する例もみられる。会社組織とは別にNPO等を立ち上げて、市民団体の目線でまちづくりに取り組む例も増えつつある。こうした新しい動きに関するノウハウの共有と高度化を進め、都市環境デザイン以外の他領域との架

け橋を築くことも重要ではないかと考える。

関西ブロックでは、他ブロックの中でも西日本の各ブロックとの連携活動も萌芽的にすすめており、今後はこうした活動を通して、新しい試みを始めることができればと思う。



写真4 道頓堀川のボードウォーク



写真5 京都市への意見書提出



写真6 韓国セミナー



写真7 ブラジルセミナー

# 中国ブロック 20年の歩み

五百田定 Gohyakuda Sadamu 有限会社ワクテク

## 1. JUDI20周年

JUDI 発足から中国ブロックは、少人数ではあるが、こつこつと活動を積み重ねてきた。20周年にあたりこれまでの活動を振り返り今後の活動に役立てたい。

## 2. 創設期

中国ブロックでは、JUDI 設立時に数名の会員が登録されていたが、それぞれが関東や関西圏の交友関係で入会していたため、中国ブロックというエリアは意識しておらず、ブロック間の横の繋がりは薄く、交流はほとんどない状態であった。

このため、先ずはお互いを知り合うことから始めようと 1993 年 1 月に広島市内で初顔合わせを行った。お互いの自己紹介から始まり、中国ブロックとしては、定期的に意見交換の機会を持つことから始めることとした。手始めに、4 月に広島アジア競技大会関連施設見学会を開催した。

しかし、ブロック内に分散する会員が集まるには日帰り圏での会合も難しく、日程調整も苦勞する状態であった。また、各都市圏における活動も人数が少なすぎて無理があり、会員増強の必要性についての認識は当初から共有されていた。

会員も少なく有効な活動が行われていない状態が続き、会員が少ないから活動が広がらない、活動が見えないので会員の勧誘も説得力がないという状況が続くと同時に、都市デザインの専門家が少ないという地方都市の状況では、勧誘したい人材も限られているという現実があった。

さらに、まちづくりという視点で、交流する目的では、中国地域には専門の枠を超え産学官野の意欲ある人を会員とする既存の組織が活発に活動しており、JUDI が求心力を発揮する環境を持ちにくい状況もあった。

1996 年、全国ブロック幹事会と連動させるフォーラムを関係者や他ブロックの方々のご協力で開催した。参加者からテーマ設定や視察内容に高い評価をいただき、活動が地味な中国ブロックが、ようやく他ブロッ

クの方々を知っていただくことができた。また、開催・訪問した地域のご協力いただいた方々に、JUDI がどのような活動をする団体なのか知っていただくきっかけとなった。

## 3. 継続的な活動

中国ブロックでは、会員が関わるタイムリーな地域の課題に対してお互い知恵を貸すこと以外に、継続して取り組んでいることがある。

### 《地域を廻る》

例会などの会合の機会を利用し、できるだけ色々な地域を訪問し、できれば地域の方と意見交換を行う。

例会を引き受ける幹事役の会員には大きな負担をかけることになるが、その地域での活動に少しでもメリットが出れば有意義である。また、副次的にブロック幹事の負担を少なくする効果も大きい。

これまで訪問した市町村は、広島市、呉市、福山市、鞆の浦、廿日市市宮島町、庄原市、三次市、尾道市、湯来町、岡山市、岡山市犬島、倉敷市、高梁市、津山市、真庭市蒜山、瀬戸内市牛窓、松江市、大田市温泉津町、大田市石見銀山、出雲市平田町、出雲市小伊津町、出雲市大社町、鳥取市、米子市、倉吉市、岩美町、山口市、秋穂町などである。



### 《公共空間の活用支援》

オープンカフェやコミュニティカフェの普及など、ソフトな仕掛けでのまちづくりを支援する活動を継続して続けている。



2000 年 JUDI 大賞 (優秀賞受賞)



2000 年 JUDI 大賞 (奨励賞受賞)



《フォーラムやセミナー》

●庄原市「田舎の手作りのつくりかた」1996年

中山間地のまちづくりを主眼に、国営備北丘陵公園を主会場とし、住民参加のユニークな地域づくりを実践している高宮町、沼隈町を見学コースに設定した。



●尾道市「路地から見たまちづくりの作法」1998年

中国・関西ブロック共催

迷路のような路地を散策し地元の人々の意見を聞きながら、ニュータウンとは対極的な都市の魅力づくりを探った。



●倉敷市「いにしえの中のアヴァンギャルディズム」

2002年 中国・関西ブロック合同セミナー

倉敷美観地区入り口にある東大橋家住宅の利用法を、地元市民、中国・関西 JUDI 会員など多彩なメンバーが集まり、活用への提案を行った。



●福山市「福山・鞆の浦」から景観を考える 2008年

関西・中国・四国ブロック合同セミナー

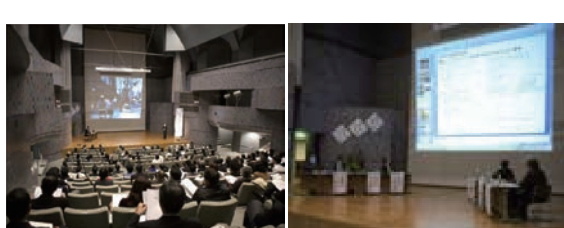
地元の人々と意見交換を行う「景観を現地で考えるセミナー」を実施し、アピールを採択した。



●岡山市「フォーラム'08 公共空間・笑顔の景」2008年

まちづくり塾主催、岡山県備前県民局、中国ブロック、公共の色彩を考える会共催

賑わい創出手法として、オープンカフェのポテンシャルと地域・民間活力の発揚などの意見交換を行った。



中国ブロックの活動経過

期	幹事 (会員数)	年月	活動内容
1期	松波龍一 (5名)		
2期	寺本和雄 (5名)	1993. 4	広島アジア競技大会関連施設見学会
3期	寺本和雄 (4名)	1993. 5	中国地方都市美協議会 「呉市街並みウォッチング」協力
4期	金谷啓紀 (8名)	1994. 4	四国ブロックの例会に参加交流
5期	金谷啓紀 (8名)	1995. 6	中国地域づくり交流会との懇親交流
		1995. 9	岡山県蒜山合宿研究 アーバンデザインとルーラルデザイン
6期	五百田定 (8名)	1996. 10	国営備北丘陵公園、沼隈町、高宮町 フォーラム開催
		1996. 10	全国ブロック幹事会の主管
7期	五百田定 (13名)		松江のまちづくりイベントの後援
8期	秋本 徹 (13名)	1998. 7	都市環境セミナー98in尾道 「路地」から見た「まちづくり」の作法
9期	秋本 徹 (13名)	1999. 11	瀬戸内しまなみ海道 風景学フォーラム 伯方島周辺
10期	長沼眞智子 (12名)	2000. 8	倉敷例会 JUDI 大賞、公共空間調査検討
11期	長沼眞智子 (14名)	2002. 4	「造景」編集会議
12期	長沼眞智子 (14名)	2002. 7	倉敷 中国関西ブロック合同セミナー 「いにしえの中のアヴァンギャルディ ズム」参加69名
13期	長沼眞智子 (13名)	2003. 8	広島市内オープンカフェ視察ツアー
		2003. 10	広島県湯来例会 たき火学会併催
14期	杵村優一郎 (15名)	2004. 9	高梁市油屋例会 街並視察
15期	杵村優一郎 (16名)	2005. 12	石見銀山シンポ参加、伝統的建造物群 保存地区見学
		2006. 1	鳥取県田後港、集落の視察意見交換
16期	伊藤幹朗 (16名)	2006. 7	石見銀山登り窯再生プロジェクトワー クショップ参加と意見交換
		2006. 11	鞆の浦まちづくり意見交換会
		2007. 2	香川県直島アートによる街づくり事情 視察、交流
		2007. 6	岡山市石上公園オープンカフェ視察
17期	伊藤幹朗 (15名)	2007. 6	広島市京橋川周辺の公共空間活用視察
		2007. 8	まちづくりシンポジウム 「木綿街道のまちづくりと中心市街地 の活性化」
		2007. 12	倉吉市伝統的建造物群保存地区視察、 活動発表
		2008. 3	岡山市オープンカフェ「カフェハウス」 竣工行事参加
		2008. 5	関西中国四国ブロック合同「鞆の浦セ ミナー」参加
18期	宮迫勇次 (14名)	2008. 11	「公共空間のにぎわいを考える—笑顔 の景—in 岡山」共催
		2009. 5	岡山県瀬戸市、犬島視察・意見交換
		2009. 6	松江市伊勢宮町の商店街活性化意見交換
19期	宮迫勇次 (14名)	2009. 8	宮島の町家通り例会 現地視察、意見交換会
20期	藤本まりこ (12名)	2010. 7	牛窓視察、意見交換会
		2011. 4	広島カフェ視察

# 四国ブロック 20年の歩み

重山陽一郎 Shigeyama Yoichiro 高知工科大学

## 1. 四国ブロックの活動の概要

四国ブロックの20年を振り返りつつ次頁の一覧表を眺めてみると、その活動は大きく2つに分類できる。1つはフォーラムやシンポジウムなどの、集まって議論し勉強するもの。もう1つは環境デザイン紀行シリーズのような現地を見学するものである。

前者のフォーラム等の議題は、その時期の重要な論点、例えば阪神大震災に関わるものや、中心市街地活性化に関わるもの、景観法や景観計画に関わるもの、重要文化的景観制度に関わるものなどを取り上げ、都市環境デザインに関わる新しい動きを学ぶ場をつくりだしてきている。

後者の環境デザイン紀行は、ブロック幹事や会員の関わりの深い場所の見学が多く、中心的な都市よりも古い町並みなどを見学してきている。また、建築や町並みだけでなく、土木遺産についても積極的に見学している。

## 2. 環境デザイン紀行シリーズ

これまで環境デザイン紀行の見学先は、有名なものもあるが、多くは「知る人ぞ知る」ものである。また、多くがかなりの僻地だったり、古くて不便だったりしているが、それゆえにそれらは愛着の湧く風景であり、それらの価値、不便だけど静かで穏やかで落ち着いていることの価値が広く認められることが、四国のまちづくりに大切なのだと、多くの会員が感じていることが、場所の選定に反映されていると思われる。

四国にはまだ数多くの「知る人ぞ知る風景」が残されている。「環境デザイン紀行」がそれらを再発見し、情報を広めていくことが、四国のまちづくりの進展とJUDI 四国メンバーの充実につながることを期待している。

以下に、これまでの環境デザイン紀行の写真の一部を紹介する。一部は最近の写真に置き換えたものもある。



第1回「宇和・大津文化を支える人々」愛媛県宇和町



第2回「棚田の景とアフォーダンス」徳島県上勝町



第5回「瀬戸内しまなみ海道・風景学フォーラム」愛媛県伯方町



第9回「春の茶堂と宇和島」愛媛県城川町、宇和島市



第10回「瀬戸内海の島・直島」香川県直島町



第12回「まち並みウォッチング in 落合」徳島県三好市



第 13 回「石のまち・庵治と牟礼」香川県牟礼町



第 14 回「芸予要塞」愛媛県今治市



第 17 回「鏡川の多自然河川工法」高知県高知市

四国ブロックの活動経過

期	幹事 (会員数)	年月	活動内容
1 期	大谷英二		
2 期	大谷英二	1993. 1	企画運営ブロック会議
3 期	大谷英二 (7 名)		ブロック機関誌(創刊号)発行
4 期	林 茂樹 (15 名)	1994. 8	シンポジウム 「ベイサイドトーク」
		1995. 2	震災ボランティア
		1995. 4	ブロック会員会議 JUDI NEWS 四国 Vol12~4 発刊
5 期	林 茂樹 (17 名)	1995. 6	シンポジウム 「淡路島の復興を考える」
		1995. 11	全国ブロック幹事会 フォーラム 「水遊都市をデザインする」
		1996. 4	ブロック運営会議 JUDI NEWS 四国 Vol15~7 発刊
6 期	大西泰弘 (18 名)	1996. 10	丸亀市都市景観講演会
		1996. 11	新居浜市の見学と講演・討論会
		1997. 2	四国セミナー 池田の街並見学
		1997. 6	ブロック総会 JUDI NEWS 四国 Vol18~11 発刊
7 期	大西泰弘 (21 名)	1997. 8	講演会 「地域資源を活用しての地域づくり・人心の華としてのデザイン」
		1997. 10	シンポジウム 「まちづくりフォーラム 新しい城下町・丸亀を考える」
		1997. 11	見学会 「別子はな街道をゆく・別子銅山の源流を訪ねて」 JUDI NEWS 四国 Vol12~15 発刊

8 期	白石高啓 (24 名)	1998. 6	「まちなみウォッチング in 出羽島」 ブロック総会
		1998. 10	環境デザイン紀行 1「宇和・大津文化を支える人々」愛媛県宇和町
		1999. 1	環境デザイン紀行 2「棚田の景とアフォーダンス」徳島県上勝町
		1999. 4	環境デザイン紀行 3「まや・むら・まちをつなぐもの... 環境デザインを支えるシステム」香川県仲南町
		1999. 6	環境デザイン紀行 4「近代土木遺産を考える」高知県土佐山田町 ブロック総会 JUDI NEWS 四国 Vol16~19 発刊
9 期	白石高啓 (26 名)	1999. 8	都市環境デザインセミナー in 高知 「中心市街地活性化への対応」共催
		1999. 11	環境デザイン紀行 5「瀬戸内しまなみ街道・風景学フォーラム」共催
		2000. 5	環境デザイン紀行 6「海辺の景観山と川と海と漁村集落」徳島県海部町 JUDI NEWS 四国 Vol20~22 発刊
10 期	重山陽一郎 (26 名)	2000. 11	JUDI 賞大賞を受賞 雑誌「造景」原稿作成 UDC-JUDI 共同調査 雑誌「造景」原稿作成 UDC-JUDI 共同調査
11 期	重山陽一郎 (26 名)		環境デザイン紀行 7「海辺の景観四国東端・椿泊の漁村集落」徳島県阿南市
			環境デザイン紀行 8「遊子の段々畑と石垣集落」愛媛県西海町
			「都市デザインセミナー 芸術によるまち興し ドイツからの報告」共催 「なぜ四国の山の木は私たちの住まいに使われていないのか」共催
12 期	島 博司 (27 名)	2003. 7	シンポジウム 「市民がつくる城下町の暮らしと景観」丸亀市 雑誌「造景」原稿作成
13 期	島 博司 (25 名)	2004. 4	環境デザイン紀行 9「春の茶堂と宇和島」愛媛県城川町、宇和島市
14 期	本田 寿 (25 名)	2004. 6	環境デザイン紀行 10「瀬戸内海の島・直島」香川県直島町
		2004. 11	環境デザイン紀行 11「ゆずの里・馬路村」高知県馬路村
		2005. 2	「徳島市中心市街地まちづくりシンポジウム」共催
15 期	本田 寿 (25 名)	2005. 9	ブロック例会
		2006. 3	建築士会青年委員会との交流会
16 期	大西泰弘 (25 名)	2006. 11	環境デザイン紀行 12「まち並みウォッチング in 落合」徳島県三好市、東祖谷山村
		2007. 6	シンポジウム 「まち並みが生きる街道のくらし」愛媛県伊予市 ブロック例会
17 期	大西泰弘 (19 名)	2007. 10	シンポジウム 「土佐の日曜市とまちの魅力・元氣」共催
		2007. 10	シンポジウム 「四万十川流域の文化的景観と近代化遺産」共催
		2008. 4	環境デザイン紀行 13「石のまち・庵治と牟礼」香川県牟礼町
		2008. 7	フォーラム 「お城の見える中心市街地を考える」
18 期	重山陽一郎 (19 名)	2009. 5	環境デザイン紀行 14「芸予要塞」愛媛県今治市
19 期	重山陽一郎 (22 名)	2009. 11	環境デザイン紀行 15「魚梁瀬森林鉄道遺産」高知県馬路村ほか
		2010. 5	環境デザイン紀行 16「八幡浜周辺の土木遺産」愛媛県八幡浜市ほか
		2010. 6	環境デザイン紀行 17「鏡川の多自然河川工法」高知県高知市
20 期	山中英生 (22 名)	2010. 10	都市景観セミナー

# 九州ブロック 20年の歩み

尾辻 信宣 Otsuji Nobuhiro 合同会社 G 計画デザイン研究所

## 1. はじめに

九州ブロックでは、初期の頃から現在まで概ね 20 数名の会員数で推移している。最近では、初期の頃に活躍された会員の多くがリタイヤし、他ブロックに先駆け若返っている。そうした時に設立 20 周年を迎えることになった。そのせいか JUDI の存在意義を模索し、同時に JUDI の職能についても幾度となく議論を重ねる等、とても重く意義深い時期を迎えている。そこで九州ブロックのこれまでの歩みをふり返り、現在、力を入れている取り組みを通して、九州ブロックの今後を展望することとしたい。

## 2. 九州ブロックの歩み

### (1) 初動期

九州ブロックの活動において、故岡道也氏（九州芸工大教授(当時)）の功績は大きい。氏を中心に建築家・造園家・都市計画家等の九州の錚々たるメンバーが集まり九州ブロックが結成された。70 名を超す懇親パーティ、博多湾洋上会議、公開シンポジウムなど精力的に様々なイベントが企画・開催された。

### (2) 地域視察・地域交流を活動の中心に

九州には豊かな自然と悠久の歴史を背景に、独自の文化を育んだ都市が多い。そうした都市の多くには、趣深い町並みが形成されている。第 3～13 期までは、そうした文化の薫る地域にこぞって足を運んでいる。例えば、海峡都市・門司 1994、有明海を臨む低平地・佐賀 1995、温泉都市別府・黒川 1996、天領日田 1998、観光農業・安心院 2001、港湾都市・佐世保 2004 など。当地の文化・環境に直接触れ、議論し、交流・親睦を盛んに行った。

### (3) 停滞期を経て、活動の活性化に取り組む

第 15～17 期には、中心的に活躍されてきたメンバーの多くが退き、活動が停滞していった。そして第 18 期以降、中心的に活躍するメンバーが若返り、ブロック事業の充実、対外的な情報発信の強化、活動情報の共有を図ってきた。主な活動は次の通り。

#### 1) 九州都市景観フォーラム

「九州の都市景観」をテーマにしたブロックのシンボル企画として毎年冬に開催している。第 1 回は『JUDI 美しい都市ランキング』の成果発表を行い、景観法制定とともに本フォーラムへの関心は高く、既に 4 回開催し毎回約 80 名の参加を得ている。

#### 2) まちづくりセミナー

『多様な領域の専門家の結集』という設立趣旨に立ち帰るとともに、ブロック会員の知見を広めることを目的に、講師を招聘したセミナーを年に数回開催して

いる。合間には「福岡の巨匠を訪ねる！」ツアーを交えるなど、嗜好を凝らした企画となるよう工夫している。

#### 3) 情報発信

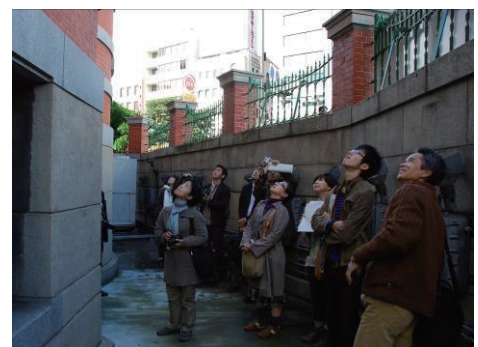
ブロックのホームページを 2008 年に立ちあげ、様々な情報を発信するとともに、会員プロフィールを掲載し、内外へ専門家としての自覚を促している。また、定例会やフォーラム、セミナー等の記録をホームページに掲載することで、ブロック活動への関心を高めている。現時点で 20 名弱のメルマガ登録があり、地道に支援の輪が広がっている。

#### (4) 20 周年事業の取り組み

ブロックでの 20 周年事業のテーマを『九州らしい地域づくりと都市環境デザイン』とし、「ゆふいんをふり返るセミナー」、10 名の若手専門家を講師に迎えた記念シンポジウム、大分大学・九州産業大学とともに竹田城下町の都市デザインを考えたワークショップ、「九



第 4 回九州都市景観フォーラム



福岡の巨匠を訪ねる！ツアー



ゆふいんをふり返るセミナー

州らしい都市環境デザイン」の事例収集、ブロック 20 周年記念誌の発行（2011 年 9 月予定）など多彩な事業に取り組んだ。こうした事業を通して、我々の専門家としての『立ち位置』を模索するとともに、現地に出て行っての議論、時系列で捉えた地方都市の環境デザインについての思索など、20 周年の節目にふさわしい企画に取り組んだ。

### 3. 今後の展望

地方ブロックの中でも『九州』は独自の活動を行ってきたと自負している。一方で、次のような悩ましい課題に今、直面している。①活動のフィールドはどうしても福岡中心にとどまってしまう。②世代交代は早くに実現できたが、慢性的な人材不足。③活動費は少なく、その確保に苦労している。また認知度が低い為、事業収入に二の足を踏む。④社会環境が変わる中で JUDI に帰属することの意義が薄らいでいる。

こうした課題を打破したい、その糸口を見出したいといった思いから、20 周年記念事業のテーマに『九州らしい』という少々、野暮ったい冠を据えている。この『九州らしい』をどう捉えるかについて、会員間で何度も論議を重ねた。そして現地に向き、その地の『らしさ』についての提言を行った「竹田のワークショップ」や、30 歳代から 40 歳前半の若手専門家との交流をもった「記念シンポジウム」などは、実験的・挑戦的な企画となった。その延長線上に次の 3 つの視点を見出し、より一層、今後の活動に邁進していきたい。①都市空間における「デザイン力」にこだわる。②絶えず歴史の文脈・系譜を読み解く。③他団体や他ブロックと連携し、都市環境デザインを深化させる。

... その先に九州の『しあわせな風景』を描く為に。



竹田ワークショップでのまち歩き



記念シンポジウム後の交流会

### 九州ブロックの活動経過

期	幹事 (会員数)	年月	活動内容
1 期	岡 道也 (9 名)		
2 期	岡 道也 (14 名)	1993. 5	博多湾洋上会議「都市環境デザインについて」
3 期	岡 道也 (24 名)	1994. 5	シンポ「海峡都市の文化を語る」in 北九州市門司
4 期	岡 道也 (24 名)	1995. 5	シンポ「佐賀の風土と環境デザイン」in 佐賀
5 期	岡 道也 (24 名)	1995. 9	秋季研究報告会 in 南小国町黒川温泉
		1996. 5	シンポ「癒しのデザイン」in 別府
6 期	大久保裕文 (25 名)	1996	会員活動報告会
		1997. 5	フォーラム「歴史のまち・太宰府のデザイン」
7 期	大久保裕文 (27 名)	1997. 11	秋季研究報告会 in 日田市
		1998. 5	春季研究報告会 in 福岡市能古島
8 期	大久保裕文 (26 名)	1998. 11	全国ブロック幹事会 in 福岡
		1998. 11	シンポ「福岡の都市デザイン その脈絡と未来」
9 期	大久保裕文 (26 名)	2000. 5	地域交流「福岡県星野村・地域おこし研究会」
10 期	玉田孝二 (25 名)	2000. 12	地域交流「熊本県水俣市・水上村」
		2001. 5	シンポ「グリーンツーリズムは産業として成立つか？」in 安心院町
11 期	玉田孝二 (23 名)	2002. 5	地域交流「鹿児島島の個性ある都市デザイン」
12 期	玉田孝二 (23 名)	2003. 5	地域視察「街歩き・北九州市小倉」
			『日本の都市環境デザイン 3-中国・四国・九州・沖縄編』発行
13 期	玉田孝二 (29 名)	2003. 6	研究報告「迷惑施設のデザイン」
		2003. 11	地域交流「豊後高田市：昭和の町づくりグループ」
		2004. 5	地域交流「佐世保市：アーバンデザイン研究会」
14 期	十時 裕 (29 名)	2004. 11	景観三講「景観行政のこれまで、これから」
		2005. 1	景観三講「景観条例の活用について」
		2005. 4	景観三講「歩き出そう景観まちづくり」
15 期	十時 裕 (29 名)	2005. 9	視察報告「ソウル清溪川・環境復元デザイン」
		2005. 11	セミナー「都市再生と地域デザイン」
16 期	十時 裕 (24 名)	2007. 1	景観フォーラム「九州の都市景観を美しくする」
17 期	十時 裕 (22 名)	2008. 2	景観フォーラム「歴史と文化の共存する九州の景観形成」
18 期	尾辻信宣 (22 名)	2008. 9	セミナー「まちづくりと風景」
		2008. 10	セミナー「まちづくりと建築」
		2008. 12	セミナー「まちづくりとデザイン」
		2009. 2	景観フォーラム「歴史の継承×都市のシンボル×景観まちづくり」
19 期	尾辻信宣 (25 名)	2009. 9	セミナー「『地域らしさ』の実現と専門家の役割」
		2009. 11	ツアー「福岡の巨匠を訪ねる！」
		2010. 1	景観フォーラム「メインストリートの都市デザイン」
20 期	尾辻信宣 (25 名)	2010. 5	セミナー「ゆふいんをふり返る」
		2010~	JUDI 20th 記念誌【九州版】編集
		2010. 9	「九州らしい地域づくりと都市環境デザイン」発掘・事例収集
		2010. 10	ワークショップ「山河に抱かれた竹田の景観まちづくり」in 竹田市
		2011. 1	20th シンポ「九州らしい地域づくりと都市環境デザイン」

# 琉球ブロックの歩み

木下能里子 Kinoshita Noriko 株式会社国建

## 1. 琉球ブロックの誕生

2003年第13期の総会記録を見ると、会則の「ブロックは全国を12に分ける」のくだりを削除する改正がなされたとある。この年、琉球ブロックが新たに誕生したためである。

発端は「全国組織なのに沖縄に会員が皆無なのは問題」ということで、その前年にJUDIメンバー一行が沖縄を訪れ、地元で都市環境デザインに携わる沖縄県人と座談会を開いたことにさかのぼる。その熱気から話は一気に盛り上がり、新ブロック設立の運びとなった。そして発起人となった石嶺一氏の呼びかけに応じて集まった10人から、琉球ブロックはスタートした。

ところでなぜ「沖縄ブロック」でなく「琉球ブロック」なのだろうか。

どうやら発起人の強いこだわりがあったらしいのだが、何度か聞いたにも関わらず実は私にはよくわかっていない。思うに、「沖縄」というのは、日本の最南端の行政区の名称だが、単純に位置特性だけにとどまらない、明らかに異色な風景がここにはある。その源流に流れているのが、アジアとの交易を展開し、南で独自の文化を築いた「琉球」の遺伝子である。環境デザインをテーマにするからには、風景のベースである「琉球」がふさわしい。そういうことではなかっただろうか。



ちなみにこの名称に関し、総会では「琉球というからには当然奄美も含むの shouldn't でしょうね?」と質問された。初代ブロック幹事に就任した石嶺氏は「無論、琉球弧全域が対象です」と、鹿児島県の意向も聴かず断言したのだが、残念なことに未だ奄美在住の会員はいない。

## 2. 琉球ブロックの活動の歩み

### (1) 全国フォーラム

琉球ブロックの最初の活動は、琉球ブロックスタートを記念して2003年11月に沖縄にて開かれた、全国ブロック幹事会および公開ワークショップの運営であ

る。

遠隔地であるにも関わらず、新たなブロックの誕生を暖かく見守っていただいた全国のJUDIメンバーが大勢来県され、にぎやかなスタートとなった。



ワークショップのテーマは「ちゅらむん・びーち ちゅらむん・めーさー」。「美ら」はNHKの朝ドラ「ちゅらさん」でメジャーになったように、清らか・美しいという意味であり、訳せば「美しいものびいき 美しいものに仕える者」ということになる。琉球の美について地元からも他ブロックからも活発な意見交換がなされたが、なかでも「美ら拡散防止条約」の提言は印象的であった。つまり、記号化した「美」の安売りには食傷したということである。観光地でありブランド化を推進しようという沖縄ではおちいりやすい陥穽であり、現在でも良好な環境デザインにおける重要な課題であり続けている。

### (2) 公募制プロジェクト

2003年から、JUDI公募制プロジェクトとして「琉球の美を探る」をテーマに研究活動を展開した。多様な伝統の技を切り口に琉球独特の美の源流を探るものとし、漆工芸や焼物、庭園、建築、植物など様々な分野の専門家を工房やフィールドに訪ねた。

ものづくりの第一人者たちから聞く話には、歴史に洗われながら残ってきた様々な美の結晶のようなものがちりばめられている。伝統や環境を繰り返しなぞり身に沁みこませてきたからこそ、自由なデザインもできる。そんなことを現地では我々も実感することができた。

またこのプロジェクトでは、様々な美の源流に触れるとともに、受け手側の我々が、そうした美をどう受け止められるのか、使いこなしていけるのかと議論を展開してきた。

この活動はその後もサロン形式で続けられ、それらの蓄積は冊子の形でまとめている。

(3) 他団体との交流・寄稿活動

2008年、フランク・ロイド・ライトの有機的建築を学ぶ AOA (有機的建築アーカイブ) の主催する講演会に、発表者として参加している。

また2009年から現在にかけて、地元新聞社の発行する週刊「タイムス住宅新聞」に JUDI 琉球ブロックとしてコラムを寄稿しており、メンバーが順に担当している。

(4) 景観フォーラム

誕生から6年がたった2009年、会員数の減少や活動の停滞を打ち破ろうと、関西ブロックから中村伸之氏を招いて景観をテーマにフォーラムを開催した。

沖縄県内では景観計画に着手しようとする市町村も増えてきた時期であり、京都の景観の事例を聞けるとあって関心と呼び、一般からの参加者も多かった。地元沖縄からもゲストの発表・琉球ブロックメンバーの発表を行い、盛況に終えることができた。

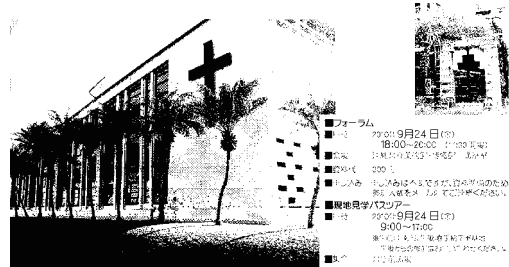


(5) 20周年事業

2011年は、20周年事業がメインの活動となった。琉球ブロックでは、これまでは伝統を主な切り口に活動を展開することが多かったが、今回は戦後のコンクリート建築をテーマに設定し、勉強会を行い、9月にフォーラムおよびバスツアー見学会を開催した。

戦後の沖縄の都市空間は、アメリカ文化や軍占領下の施策の影響を色濃く受けている。その経緯をたどりながら、沖縄の人々がそれらをどのように受け止め、消化し、いまの圧倒的に非木造住宅の多い沖縄のまちをつくってきたか、ほんの一部ではあるが通観することができた。またメインスピーカーの鳴海邦碩氏によ

るアジア各国のコンクリート事情との比較も興味深く、今後も何らかの形で掘り下げていきたいテーマとなった。



3. むすびにかえて

琉球ブロックは人数も少なく、近年は目立った活動が少なくなってきたが、振り返ればやはり8年の蓄積はそれなりの成果があったと感じる。また全国との交流は参加したメンバーにとってその都度大きな刺激となっている。2年後に10年を迎えるところでもあり、活動の広がりを図っていききたい。

琉球ブロックの活動経過

期	幹事 (会員数)	年月	活動内容
13期	石嶺 一 (10名)	2003. 11	全国ブロック幹事会
		2003. 11	琉球ブロック設立記念ワークショップ 公募制プロジェクト活動「琉球の美を探る—伝統の技からその美を考える・その1—」
14期	石嶺 一 (10名)		公募制プロジェクト活動「琉球の美を探る—伝統の技からその美を考える・その2—」
15期	石嶺 一 (9名)		公募制プロジェクト活動「琉球の美を探る—伝統の技からその美を考える・その3—」
16期	石嶺 一 (8名)		公募制プロジェクト活動「琉球の美を探る—伝統の技からその美を考える・その3—」
17期	石嶺 一 (7名)		公募制プロジェクト活動「琉球の美を探る—伝統の技からその美を考える・その4—」
18期	木下能里子 (7名)	2008. 10	AOA (有機的建築アーカイブ) との共同シンポジウム
		2009. 6	都市環境デザインフォーラム2009
19期	木下能里子 (5名)		「オキナワ・スタイルの系譜—亜熱帯のコンクリートデザイン」に関する研修
			タイムス住宅新聞への投稿
20期	木下能里子 (5名)	2010. 9	フォーラム「オキナワ・スタイルの系譜—亜熱帯のコンクリートデザイン」
			AOA (F.L. ライト研究グループ) 及び他団体との合同フォーラム
			タイムス住宅新聞への投稿

# 広報委員会 20年の歩み

松村みち子 Matsumura Michiko タウンクリエイター

## 1. JUDIの情報を発信し続けて20年

広報委員会はJUDIが発足した当初(1991年)、ニュースレターの編集、JUDIの案内パンフレットの作成などを担当する委員会として設置され、発足時の名称は広報・出版委員会であった。ニュースレターは第2号から紙面構成の冊子「JUDI NEWS」となり、58号から「JUDI」と名称を変えた。20年の活動の歩みをまとめた。

## 2. 広報委員会の活動の歩み

### (1) 「JUDI NEWS」および「JUDI」の発行

発足時の「JUDI NEWS」は「ニュースレター」としての位置づけであった。幸い発足後は順調に入会者が増え続け、ブロック別の活動も活発に開始されたことから、第2号から紙面構成をとった冊子で発行され、現在に至っている。写真1がその記念すべき第2号の「JUDI News」(1991年10月20日発行)である。2号ではロゴの決定を発表し、3号よりそのロゴを用いるようになった(写真2)。

紙面のデザインは、2号、3~6号、7~57号、58~103号と変わり、104号からデザインを一新した。

写真3は7号(1992年8月発行)で、全6頁である。57号までは「ニュース」と名づけてはいたものの、発行が遅れがちとなり、ニュースとしての迅速さや新鮮さに欠けることが多くなった。そこで2001年1月発行の58号から会報と位置づけ、「JUDI」に名称変更した。写真4は100号記念特集号(2009年6月発行・32頁)の表紙のロゴ部分である。103号までこのロゴによるデザインを用いた。2011年1月発行の104号(写真5)からは、デザインを一新し、編集・印刷を外部委託に切り替えた。

「JUDI NEWS」の編集作業は発足当初から広報委員のボランティアで進められてきた。初期の委員数は10名で、9~20号時期には6名にまで減少した。その後、21号(1994年12月発行)で委員を12名に増やし、20名態勢で運営した時期もあったが、2011年5月現在の委員数は14名である。

21号から委員になっている筆者を含め同じ顔ぶれが長く委員を務めていることから、メンバーの交代や若手委員の拡充に努めたいのだが、なかなか引き受け手がないのが現状である。

「JUDI」では、年間テーマや各号の特集テーマに基づいた紙面構成としている。

設立後10年間は、ウォーターフロント、パブリックアート、アーバンデザイン行政などのテーマがたびたび取り上げられている。



写真1 JUDI News 第2号(1991年10月発行)



写真2 第3号より使用されたJUDIのロゴ



写真3 JUDI NEWS のデザイン(7号~57号)



写真4 会報 JUDI の表紙ロゴ部分(58号~103号)



写真5 デザインを一新した104号



ウォーターフロントでは、六甲アイランドや臨海副都心の事例のほか、水辺空間のデザインについて多くの事例報告がなされている。

バリアフリーや市民参加についても初期の頃から取り上げている。

10号(1993年3月)では、「市民まちづくりにおける都市環境デザイン」を、21号(1994年12月)では「人にやさしいまちづくり」を特集している。

1995年1月17日には阪神・淡路大震災が発生。

それ以降、防災・震災・安全をテーマとした特集が組まれる機会が増えた。主なものを拾ってみると、以下ようになる。

22号(1995年2月)「阪神・淡路大震災について」

23号(1995年3月)：特集「阪神・淡路大震災」

29号(1996年4月)：特集「阪神大震災1年後・被災地の春」

41号(1998年3月)：特集「震災復興住宅の都市デザイン諸相」

93号(2007年6月)：特集「都市の安全と環境デザイン」

これら特集テーマは、やはり時代背景や社会のニーズを反映しており、79号(2004年7月)では景観法を、82号(2005年1月)では古都法を取り上げ、83号(2005年3月)では景観法に関連して伝統的建造物群保存地区の景観についても特集を組んでいる。

発足後10年を過ぎると、それまで出てこなかった「観光・スローライフ」と「地域再生・都市再生」がテーマとして浮上した。

観光では「時間環境デザイン」(66号・2002年5月)や「観光のデザインー沖縄」(69号・2002年11月)などが挙げられ、「地域再生」では87号(2005年11月)が九州・沖縄を、88号(2006年1月)が関西を取り上げた。面白い企画として96号(2008年6月)の「繁華街再生と景観デザイン」、97号(2008年9月)の「風俗・アンダーグラウンド空間の再生」がある。背景には「健全で魅力あふれる繁華街・歓楽街の再生」「大都市等の魅力ある繁華街の再生」という政府目標があり、基本は安全・安心なまちづくりである。

このように多様なテーマを扱っている「JUDI」であるが、編集方針を決めたり、テーマごとに担当を分担して原稿を依頼し、編集(レイアウト含む)する作業は結構大変で、なかなか計画どおりに発行できていない。さらなる改善が必要である。

なお、79号から広報・出版委員長を務めた邑上守正氏が2005年10月に武蔵野市長に当選したことを受け、同年10月に「JUDI号外」が発行された。ただし、発行者名は代表幹事会である。

## (2) その他の活動

広報・出版委員会では、会報の発行以外に、これまで主に次のような活動を行ってきた。

1) 都市環境デザイン会議のブロッシャー(案内パンフレット)の発行

2) 年鑑の発行(2000年)

『Japan Urban Design Institute 1991-2000』

JUDI ニュースインデックス(125ページ)

3) JUDI 創立10周年 特別企画

年間テーマとして「会員が参加する誌面づくり」を掲げ、『私の描く21世紀の生活と住環境』を課題とする作品を募集。第11期JUDI総会(2001年7月14日)会場に展示した。総会参加者による好感度投票、一言評価を添えて、61号(2001年7月)に掲載した。

4) JUDI 100号記念アンケート調査

JUDI 発足後、約20年間の時代の変化を読み取ることを目的に、JUDI 会員を対象にアンケート調査を実施。結果をまとめて、100号記念特集号にて発表した。



ブロッシャー

## 3. 歴代広報委員長ならびに委員

歴代の広報委員長ならびに委員は、以下のとおりである。(順不同、敬称略)

### (1) 歴代委員長

1期は不明(林泰義?)、土田旭(2期途中~8期)、澤木俊岡(9~13期)、邑上守正(14期)、白濱力(15~18期)、松村みち子(19期~)

### (2) 歴代委員 (○は現在の広報委員)

井口 勝文	上野 泰	江川 直樹
大塚 守康	榎原 和彦	佐野 寛
○菅 孝能	近田 玲子	鳴海 邦碩
林 泰義	小林 郁雄	澤木 俊岡
宮前 保子	土田 旭	森 延彦
伊藤 光造	○中嶋 猛夫	○櫻井 淳
○作山 康	清水 泰博	折田 知子
○松村みち子	河本 一行	森川 稔
○吉田 慎悟	○横山あおい	石崎 均
○白濱 力	○加茂みどり	邑上 守正
○横山 裕	○島 博司	中田 政廣
○松山 茂	○岸田 文夫	○服部 圭郎

これまでの広報委員会の活動を支えてくださった歴代の委員の皆様には、心より御礼申し上げます。

# 研修委員会 20年の歩み

鳴海邦碩 Narumi kunihiro 大阪大学名誉教授

松本篤 Matsumoto atsushi 愛知産業大学造形学部

## 1. 研修委員会の活動概要

1991年の都市環境デザイン会議（JUDI）設立時に、「会員を対象にしたセミナー、講演会、見学会等会員の研鑽を狙いとした活動を企画、実行するための委員会」として研究・研修委員会が設置された。同時に JUDI の事業計画には「本会会員の研鑽に資する」だけでなく、「併せて、非会員も対象として、都市環境デザインの重要性について広く社会の認識を高めるための講演会、セミナーの開催」が掲げられていた。こうした主旨を受け、その後の委員会の研修活動は、会員向けに加え、学生向け、自治体職員向けの3つの分野を対象とする構成となった。

一方で研究活動については、委員会としては展開せず、会員それぞれの取り組みが進む中で、代表幹事会による会員の活動を紹介し顕彰する場としての発表会や JUDI 賞選考、あるいは公募プロジェクトなどの支援に場を譲った。

このような経緯から、委員会は第14期より名称を研修委員会と改め、研修機能を中心に活動してきた。第16期より JUDI 賞選考と発表会の開催運営が代表幹事会から研修委員会に移行し、改めて研究や活動支援の機能を担うことになった。

委員会のメンバーについては、当初より JUDI 設立の主旨を反映するように都市環境デザインに関わる幅広い分野、地域の会員で構成されてきた。2000年を過ぎる頃から、会員の要望や社会情勢の変化に対応するため委員会活動の見直しが課題となり、第15期にいったん少人数での委員会運営に移行し、魅力的で望ましい研修委員会のあり方を模索した。現在委員会は、地方ブロックとの広範な連携を視野に、関東と関西ブロックのメンバーを中心に構成されている。

## 2. 研修活動について

### (1) セミナー・講演会について

自治体職員向けセミナーについては、第1期の試行的な連続セミナーの後、第5～17期まで12回、都市づくりパブリックデザインセンター（UDC）と共催で「都市環境デザイン特別演習」を開催した。これは、JUDI 側からは課題と様々な分野から講師を提供し、UDC 側は会員である自治体や企業から参加者を募るという連携のもと、3日間連続で開催される演習形式のセミナーである。実際の場所を課題に、手を動かして作成された図面などをもとに最新の都市環境デザインの理念や手法を議論し学ぶというユニークな内容で成果を上げてきた。近年は自治体や企業活動の変化にそって内容の転換が求められているところである。

研修委員会の活動経過（セミナー・講演会について）

JUDI年度 /西暦	委員会 委員	個別活動	学生向けの研修セミナー	会員向けの都市環境デザインセミナー	
1期/1991	篠原修、窪田陽一、岸井隆幸、高見公雄、西脇敏夫	◎都市環境デザインセミナー 1 7月23日 参加者13名 2 9月5日 参加者15名 3 10月15日 参加者15名 4 12月3日 参加者17名 5 12月10日 参加者10名	◆都市環境デザイン特別演習 (UDC共催) ◆都市環境デザイン学生セミナー	◆都市環境デザイン連続セミナー (特定テーマ)	
2期/1992	篠原修 全幹アンケート、事例紹介シンポジウム実施	◎定例報告シンポジウム			
3期/1993	篠原修 浦口勝二、岸井隆幸、倉田道直、柳原和彦、吉田慎吾、窪田陽一			1 15月21日<3期> 参加者72名 大谷幸夫	
4期/1994	篠原修 浦口勝二、後藤春彦、上山良子、西村幸夫、西脇敏夫、岸井隆幸、吉田慎吾、大野美代子			2 4月15日<3期> 代官山ルサドプラザ 対談：土田昭明、西村幸夫	
5期/1995	篠原修 研修・研究委員会の活動は、会員向け、自治体向け、学生向けの3区分	1 7月12日～14日、UDC 会場：参加者10名 2 8月17日、東京大学都市工学部14号館10教室、参加者230名 3 9月17日、早稲田大学理工学部55号館N1大会議室 4 10月28日～30日、UDC 会場：参加者15名 5 11月22日、OCAT 神戶、参加者63名 6 12月5日、産業記述記念館大ホール、参加者65名 7 12月29日、日本大学理工学部9号館、参加者約200名 8 1月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 9 2月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 10 3月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 11 4月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 12 5月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名	1 8月17日、東京大学都市工学部14号館10教室、参加者230名 2 9月17日、早稲田大学理工学部55号館N1大会議室 3 10月28日～30日、UDC 会場：参加者15名 4 11月22日、OCAT 神戶、参加者63名 5 12月5日、産業記述記念館大ホール、参加者65名 6 12月29日、日本大学理工学部9号館、参加者約200名 7 1月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 8 2月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 9 3月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 10 4月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 11 5月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 12 6月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名		
6期/1996	篠原修 浦口勝二、後藤春彦、上山良子、西村幸夫、西脇敏夫、岸井隆幸、大野美代子	2 9月11日～13日、UDC 会場：参加者18名 3 10月24日～26日、UDC 会場：参加者14名 4 10月28日～30日、UDC 会場：参加者15名 5 11月22日、OCAT 神戶、参加者63名 6 12月5日、産業記述記念館大ホール、参加者65名 7 12月29日、日本大学理工学部9号館、参加者約200名 8 1月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 9 2月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 10 3月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 11 4月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 12 5月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名	2 8月29日、早稲田大学理工学部55号館N1大会議室 3 10月24日～26日、UDC 会場：参加者14名 4 10月28日～30日、UDC 会場：参加者15名 5 11月22日、OCAT 神戶、参加者63名 6 12月5日、産業記述記念館大ホール、参加者65名 7 12月29日、日本大学理工学部9号館、参加者約200名 8 1月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 9 2月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 10 3月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 11 4月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 12 5月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名	3 10月29日、早稲田大学理工学部55号館N1大会議室 4 11月22日、OCAT 神戶、参加者63名 5 12月5日、産業記述記念館大ホール、参加者65名 6 12月29日、日本大学理工学部9号館、参加者約200名 7 1月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 8 2月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 9 3月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 10 4月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 11 5月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 12 6月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名	
7期/1997	篠原修 材料歴史、浦口勝二、後藤春彦、上山良子、西村幸夫、西脇敏夫、岸井隆幸、大野美代子	3 10月24日～26日、UDC 会場：参加者14名 4 10月28日～30日、UDC 会場：参加者15名 5 11月22日、OCAT 神戶、参加者63名 6 12月5日、産業記述記念館大ホール、参加者65名 7 12月29日、日本大学理工学部9号館、参加者約200名 8 1月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 9 2月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 10 3月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 11 4月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 12 5月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名	3 10月24日～26日、UDC 会場：参加者14名 4 10月28日～30日、UDC 会場：参加者15名 5 11月22日、OCAT 神戶、参加者63名 6 12月5日、産業記述記念館大ホール、参加者65名 7 12月29日、日本大学理工学部9号館、参加者約200名 8 1月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 9 2月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 10 3月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 11 4月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 12 5月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名	3 11月22日、OCAT 神戶、参加者63名 4 12月5日、産業記述記念館大ホール、参加者65名 5 12月29日、日本大学理工学部9号館、参加者約200名 6 1月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 7 2月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 8 3月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 9 4月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 10 5月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 11 6月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 12 7月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名	
8期/1998	篠原修 材料歴史、浦口勝二、後藤春彦、上山良子、西村幸夫、西脇敏夫、岸井隆幸、大野美代子	4 10月28日～30日、UDC 会場：参加者15名 5 11月22日、OCAT 神戶、参加者63名 6 12月5日、産業記述記念館大ホール、参加者65名 7 12月29日、日本大学理工学部9号館、参加者約200名 8 1月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 9 2月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 10 3月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 11 4月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 12 5月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名	4 10月28日～30日、UDC 会場：参加者15名 5 11月22日、OCAT 神戶、参加者63名 6 12月5日、産業記述記念館大ホール、参加者65名 7 12月29日、日本大学理工学部9号館、参加者約200名 8 1月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 9 2月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 10 3月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 11 4月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 12 5月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名	4 12月5日、産業記述記念館大ホール、参加者65名 5 12月29日、日本大学理工学部9号館、参加者約200名 6 1月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 7 2月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 8 3月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 9 4月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 10 5月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 11 6月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 12 7月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名	4 12月5日、産業記述記念館大ホール、参加者65名 5 12月29日、日本大学理工学部9号館、参加者約200名 6 1月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 7 2月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 8 3月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 9 4月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 10 5月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 11 6月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 12 7月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名
9期/1999	岸井隆幸 材料歴史、後藤春彦、篠原修、下村彰男、林英光、西村幸夫、西脇敏夫、岸井隆幸、大野美代子	5 10月27日～29日、UDC 会場：参加者13名 6 11月22日、OCAT 神戶、参加者63名 7 12月5日、産業記述記念館大ホール、参加者65名 8 12月29日、日本大学理工学部9号館、参加者約200名 9 1月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 10 2月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 11 3月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 12 4月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名	5 10月27日～29日、UDC 会場：参加者13名 6 11月22日、OCAT 神戶、参加者63名 7 12月5日、産業記述記念館大ホール、参加者65名 8 12月29日、日本大学理工学部9号館、参加者約200名 9 1月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 10 2月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 11 3月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 12 4月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名	5 10月27日～29日、UDC 会場：参加者13名 6 11月22日、OCAT 神戶、参加者63名 7 12月5日、産業記述記念館大ホール、参加者65名 8 12月29日、日本大学理工学部9号館、参加者約200名 9 1月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 10 2月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 11 3月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 12 4月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名	
10期/2000	岸井隆幸 11月2日、3日 JUDI大賞選考・授与	6 10月16日～18日、UDC 会場：参加者12名 7 11月22日、OCAT 神戶、参加者63名 8 12月5日、産業記述記念館大ホール、参加者65名 9 12月29日、日本大学理工学部9号館、参加者約200名 10 1月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 11 2月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 12 3月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名	6 10月16日～18日、UDC 会場：参加者12名 7 11月22日、OCAT 神戶、参加者63名 8 12月5日、産業記述記念館大ホール、参加者65名 9 12月29日、日本大学理工学部9号館、参加者約200名 10 1月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 11 2月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 12 3月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名	6 10月16日～18日、UDC 会場：参加者12名 7 11月22日、OCAT 神戶、参加者63名 8 12月5日、産業記述記念館大ホール、参加者65名 9 12月29日、日本大学理工学部9号館、参加者約200名 10 1月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 11 2月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 12 3月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名	
11期/2001	岸井隆幸 後藤春彦、篠原修、下村彰男、林英光、西村幸夫、西脇敏夫、岸井隆幸、大野美代子	7 11月26日～28日、UDC 会場：参加者12名 8 12月5日、産業記述記念館大ホール、参加者65名 9 12月29日、日本大学理工学部9号館、参加者約200名 10 1月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 11 2月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 12 3月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名	7 11月26日～28日、UDC 会場：参加者12名 8 12月5日、産業記述記念館大ホール、参加者65名 9 12月29日、日本大学理工学部9号館、参加者約200名 10 1月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 11 2月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 12 3月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名	7 11月26日～28日、UDC 会場：参加者12名 8 12月5日、産業記述記念館大ホール、参加者65名 9 12月29日、日本大学理工学部9号館、参加者約200名 10 1月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 11 2月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名 12 3月22日、京都市立総合文化センター、参加者約200名	
12期/2002	西村幸夫 公募プロジェクト開設	8 7月10日～12日、UDC 会場：参加者12名 9 8月20日～22日、UDC 会場：参加者12名 10 9月10日～12日、UDC 会場：参加者12名 11 10月10日～12日、UDC 会場：参加者12名 12 11月10日～12日、UDC 会場：参加者12名	8 7月10日～12日、UDC 会場：参加者12名 9 8月20日～22日、UDC 会場：参加者12名 10 9月10日～12日、UDC 会場：参加者12名 11 10月10日～12日、UDC 会場：参加者12名 12 11月10日～12日、UDC 会場：参加者12名	8 7月10日～12日、UDC 会場：参加者12名 9 8月20日～22日、UDC 会場：参加者12名 10 9月10日～12日、UDC 会場：参加者12名 11 10月10日～12日、UDC 会場：参加者12名 12 11月10日～12日、UDC 会場：参加者12名	
13期/2003	西村幸夫 岸井隆幸、後藤春彦、篠原修、下村彰男、林英光、西村幸夫、西脇敏夫、岸井隆幸、大野美代子	9 7月23日～25日、UDC 会場：参加者8名 10 8月20日～22日、UDC 会場：参加者8名 11 9月10日～12日、UDC 会場：参加者8名 12 10月10日～12日、UDC 会場：参加者8名	9 7月23日～25日、UDC 会場：参加者8名 10 8月20日～22日、UDC 会場：参加者8名 11 9月10日～12日、UDC 会場：参加者8名 12 10月10日～12日、UDC 会場：参加者8名	9 7月23日～25日、UDC 会場：参加者8名 10 8月20日～22日、UDC 会場：参加者8名 11 9月10日～12日、UDC 会場：参加者8名 12 10月10日～12日、UDC 会場：参加者8名	
14期/2004	松本篤 「施設委員会」と「特別委員会」に区分	10 11月24日～28日、UDC 会場：参加者9名 11 12月10日～14日、UDC 会場：参加者9名 12 1月10日～14日、UDC 会場：参加者9名	10 11月24日～28日、UDC 会場：参加者9名 11 12月10日～14日、UDC 会場：参加者9名 12 1月10日～14日、UDC 会場：参加者9名		
15期/2005	松本篤 少人数運営での活動見直し				
16期/2006	松本篤 18期より、JUDI 賞選考を企画・発表会も運営	11 11月15日～17日、UDC 会場：参加者9名 12 12月10日～14日、UDC 会場：参加者9名	11 11月15日～17日、UDC 会場：参加者9名 12 12月10日～14日、UDC 会場：参加者9名		
17期/2007	松本篤 14期以降 研修委員会	12 11月15日～17日、UDC 会場：参加者9名 13 12月10日～14日、UDC 会場：参加者9名	12 11月15日～17日、UDC 会場：参加者9名 13 12月10日～14日、UDC 会場：参加者9名		
18期/2008	松本篤 大学と共同で「まちづくり会議」を開催				
19期/2009	鳴海邦碩 各ブロック幹事へのアンケート実施				
20期/2010	鳴海邦碩 JUDI20周年にあわせの風景デザイン	13 10月8日、パナソニックエレクトロニクスビル 参加者9名 14 11月15日～17日、UDC 会場：参加者9名 15 12月10日～14日、UDC 会場：参加者9名	13 10月8日、パナソニックエレクトロニクスビル 参加者9名 14 11月15日～17日、UDC 会場：参加者9名 15 12月10日～14日、UDC 会場：参加者9名	◆ブロック連携プロジェクト 鳥の島観覧セミナー 10月16日～10月17日 鳥の島土庄町総合会館 参加者49名 賞状の頒布の一つである 鳥の島について	
21期/2011	鳴海邦碩 東日本大震災を契機とした活動を委員会の基本テーマに				

学生向けの研修セミナーについては、第5～13期まで、多分野から複数の講師を招いて講演会やシンポジウム形式での「都市環境デザイン学生セミナー」を8回、各地で開催した。その後は、会員向けに第12期に新設された「押しかけリレーセミナー」に学生を受け入れることに引き継がれている。

会員向けのセミナーは、第2～10期まで、単独の講師による講演会形式の「都市環境デザインセミナー」を4回開催し、当初の3回は記録の冊子を刊行している。類似のセミナーが増加する中、JUDI会員の多様性を活かし、若手会員を対象に少人数で仕事の現場、事務所に伺って開催する「押しかけリレーセミナー」に移行し、第12～14期まで7回集中して開催した。このセミナーは好評であったが関東圏での開催が中心になることから第17期に関東ブロックに引き継がれた。

その他、特定のテーマに絞った一般会員向けの都市環境デザイン連続セミナーを、UDCと連携して第12、13期に2回開催した。

従来からの3分野の研修活動は現在転換期にあるが、第20期には、新たに「ブロック連携プロジェクト」として、関西、中国、四国、九州、琉球ブロック連携での「島の景観セミナー」を芸術祭開催中の小豆島で開催し、各ブロックや開催地域の方も含め多くの参加を得た。



島の景観セミナーの様子

## (2) 発表会・JUDI賞について

発表会については、当初は定例総会に合わせ代表幹事が運営してきた。また会員の優れた取り組みに授与するJUDI賞の選定がJUDI10周年を機に設けられた。このふたつを合わせ、第16期より研修委員会が運営している。特に地方ブロックでの開催では、発表会がJUDIと地域との交流の場となるよう、JUDI会員とつながりがある、地域で都市環境デザインなどに取り組まれている方やグループをお招きし、実践や研究を報告、発表していただくとともにJUDI賞の選考対象にも加えている。なお、第20期は、20周年記念事業との関連で、発表会とJUDI賞選考は一時中断している。

## 3. これからの研修委員会について

JUDI設立から20年の間に社会情勢も大きく転換を始めている。開催されてきたセミナーを俯瞰すると、テーマでは「アーバンデザイン」というキーワードは「景観」に、開催形式も大都市での講演会から地域での個別で参加型のセミナーへと移行してきているように思われる。都市環境デザインの意味や求められるものも時間の中で推移していくところがある。特に発生からまだ日の浅い東日本大震災という出来事はこの先の都市環境デザインのあり方を厳しく問うものである。研修委員会は20周年を機に、今回の震災をひとつの手がかりにして次の歩みを進めたい。

### 研修委員会担当（第16期以降）の発表会とJUDI賞

2006年16期		7月16日 石川県生涯学習センター	
JUDI特別賞	研究プロジェクト	美しい都市ランキング	高見公雄
	公募プロジェクト	市民の目線に立った金沢パブリックアートプロジェクト	土田義郎、谷明彦、上坂達郎
	一般発表	富山の岩瀬の町並み整備	森俊偉
	一般発表	富山港線のトータルデザイン	宮沢功、島津勝弘
JUDI賞	一般発表	富山市LRTの事業説明+VTR	富山市路面電車化推進室長 室智雄
	一般発表	地域文化を活用したまちづくり(市場)活性化のとらえ	阪井暎子
	一般発表	広小島の復興プロジェクトと市民参画	石田匠、谷口庄一
	一般発表	登り窯を用いた地域伝統文化再生への取り組み	伊藤幹夫、寺本和雄
JUDI奨励賞	一般発表	景観へのコンセンサス形成のための色彩ワークショップ	杉山朗子
	一般発表	使われる公共空間とは	高松誠治
	一般発表	山梨県甲州市勝沼町における景観まちづくり	屋代雅充

2007年17期		7月15日 名古屋都市センター11階大研修室	
JUDI特別賞	研究プロジェクト	美しい都市ランキング	高見公雄
	公募プロジェクト	市民の目線に立った金沢パブリックアートプロジェクトII	土田義郎、谷明彦、窪隆弘
	公募プロジェクト	琉球の美を探る-伝統の技からその美を考ふるIII	石嶺一(次席)
	公募プロジェクト	日独国際比較縮小都市研究と夕張都市再生シンポジウム	柳田良三、他
JUDI奨励賞	一般発表	都市の音探検-渋谷サウンドウォークを事例として-	鳥越けい子
	一般発表	京都市の「新景観政策」動く/注目の京都市新景観政策と周辺の動きから	藤本英子
	一般発表(ゲスト)	岐阜市のまちづくり 岐阜市における市民協働とぎふまちづくりセンターの活動/岐阜市川原町のまちづくり~古今金華/生活景観づくりへの取り組み	富樫幸一、野々村聖子、今田太一郎
	一般発表	舟遊で、水辺から街を変える	須永 優子
JUDI賞	一般発表	大規模チェーン店舗と世界遺産候補地の遺産	小林清泰
	一般発表	岡山のオーブンカフェ-「まちづくり」から「まちづかい」へ	藤本まり子 金谷啓紀 長沼眞智子
	一般発表	親子の視点に立った環境学習教室の企画と運営	谷口庄一

2008年18期		9月14日 鶴岡魚市場	
JUDI賞	研究プロジェクト	美しい都市ランキング	高見公雄
	一般発表(鶴岡)	山形県鶴岡市の短中期滞在住宅「旅の家 崎鶴亭」の取り組み	早坂 進
JUDI奨励賞	公募プロジェクト	<鶴岡市内まち歩き> 夕張フィールドワーク&都市再生シンポジウム	柳田 良進、他
	一般発表(鶴岡)	街路空間のデザイン検証-福井地域を事例として-	川上洋司、他
JUDI賞	一般発表(鶴岡)	地域歴史資産を活用した中心市街地活性化の試み/2007内川再発見プロジェクトI-その目的と効果-	村山 智昭
JUDI賞	一般発表(鶴岡)	内川再発見プロジェクトI・ライティングプロジェクト	花沢 淳
JUDI賞	一般発表(鶴岡)	内川再発見プロジェクトII-明治ノ芝居小豆カラ-活動報告	國井 美保
JUDI賞	一般発表(鶴岡)	学院の社会連携-内川再発見プロジェクトI、IIを連して-	國井 美保

2009年19期		7月19日 東京エレクトロホール(宮城県民会館)	
JUDI特別賞	研究プロジェクト	美しい都市ランキング	高見公雄
	公募プロジェクト	国際比較による東アジア地域の環境色彩分析	横川昇二
	公募プロジェクト	フォーラム08「公共空間・笑顔の景」(岡山県協働事業)の開催	宮迫 勇次
	公募プロジェクト	第3回九州都市景観フォーラム	尾辻 信宣
JUDI奨励賞	公募プロジェクト	鶴岡の水辺環境デザインを計画する	柳田 良進、他
	一般発表(ゲスト)	新聞販売店が発行する地域ミニコミ紙	谷津 智里
JUDI賞	一般発表(ゲスト)	まちづくり活動における地域資源に対する住民の認識を醸成する手法に関する一考察-福島県桑折町における「お気に入りスポットコンテスト」を事例として-	高田 直樹、苅谷 智大
	一般発表(ゲスト)	福島県桑折町におけるカフェ図書館の開設・運営プロセスにみるまちづくりへの波及効果についての考察	高田 直樹、苅谷 智大
JUDI奨励賞	公募プロジェクト	歴史資源を活かした「もてなし」の演出	斎藤 浩治

# 事業委員会 20年の歩み

横川昇二 Yokokawa Shouji 横川環境デザイン事務所、東京工科大学

## 1. これまでの活動の経緯

事業委員会は、収益事業を中心に活動してきた。まず、はじめに、事業委員会の活動の推進のために勢力を注がれた歴代の委員長、そして委員の皆様にご敬意を表するとともに、モニターメッセ事業をはじめ、出版事業やシンポジウム開催、他団体への協力など、これまでの活動をふり返ってみることとする。

### (1) モニターメッセ事業

1991年5月にJUDI発足、その翌年に都市環境デザインモニター・プレメッセを試行し、1993年より毎年総会時にモニターメッセを開催してきた。今年で19年目を数えるが、これまでモニターメッセは、会議のメンバーが自ら社会的、専門的なモニターとなり、都市環境製品の開発、素材の供給、技術の開発などに関与される産業界の方々のご協力を得て、双方向型の情報交換の場として開催し、これまでに発表された製品等は240例余りに上る。2007年からは、このような場としての機能をより進化させることを目的に、従来のモニターメッセとは別に「ポストモニターメッセ」を年末に開催している。



図1 モニターメッセの様子



図2 ポスターセッション



図3 モニターメッセ報告

### (2) シンポジウム開催

○1998年7月の総会后

シンポジウム「次世代都市環境への課題」

○1999年7月

交流サロン「地方分権への胎動と地方都市の都市デザイン潮流」

○2000年7月

交流サロン「地方分権への胎動と地方都市の都市デザイン潮流」

○2001年7月

交流サロン「まちづくりからまちづかいへ」  
公共空間利用実態調査の内容を各ブロックから発表

○2002年7月

交流サロン「まちづくりからまちづかいへ第二弾」

### (3) 出版事業

○「都市環境デザインガイドブック」の企画・編集

・1995年度より企画・編集活動を実施

○「都市環境デザインガイド・パネル」の作成と展示

・1997年に前項の成果をひとまとめとしてパネル製作、7月のモニターメッセ会場に展示

・1997年10月イタリアで一部パネル展示

・1997年11月ブラジルで全パネル展示

・1998年長岡市国際デザインフェア、自治体総合フェア、横浜都市デザインフォーラムで展示

・2000年「アーバンデザイン2000」にパネル展示

○「日本の都市環境デザイン」の編集・出版

・ガイドブックを発展させた形での出版を企画・編集・出版

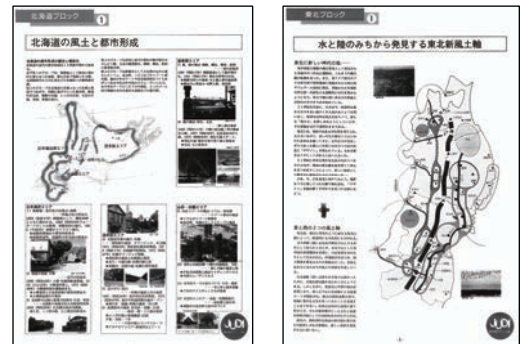


図4 都市環境デザインガイド・パネル

「北海道の風土と都市形成」(左)

「水と陸の道から発見する東北新風土軸」(右)



図5 日本の都市環境デザイン (2003)

### (4) 他団体への協力

・公共空間利用実態調査 (2001年2月～2002年7月)  
(財)都市づくりパブリックデザインセンターと共同で全国の公共空間の利用実態を調査

各ブロック概ね 10 箇所、全国で約 100 箇所  
調査結果を報告書「都市の魅力と公共空間活用  
2002」にまとめ、2002 年 7 月に印刷

- ・(財)都市づくりパブリックデザインセンターのセミナーへの講師派遣 (1993 年～1997 年度)
- ・景観材料推進協議会のセミナーへの講師派遣 (1995 年～1997 年)



図 6 公共空間利用実態調査  
「都市の魅力と公共空間活用 2002」

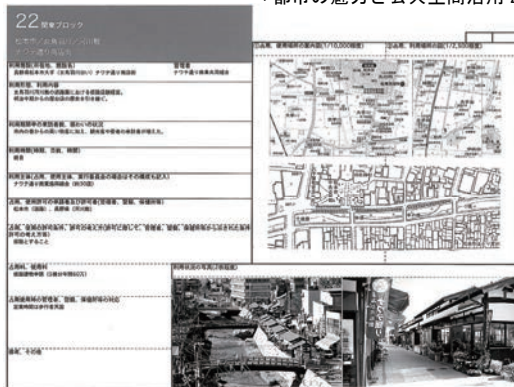


図 7 長野県松本市における実態調査 (同報告書)

## 2. 今後の活動に向けて

設立後 10 年余りは、都市環境デザインへの関心も高く、当会の会員構成も幅広い分野にわたっており、モニターメッセの参加企業も 10 数社に及んでいた。会場も広く、多くの参加者で賑わっていたことを記憶している。また、出版事業もこの当初の 10 年余りの時期に実施されたものであり、ブロック活動を中心に進められる当会の特徴が明確に現れた時期でもあった。その節目となったのが、バブル崩壊に伴い景気低迷や公共事業の見直しが始まりつつあるとき、設立 10 周年を迎えて行われた「JUDI 賞」であろう。当時の 9 つのブロックから寄せられた応募について審査され、大賞はじめ各賞が決められ発表が行われた。この時に JUDI 賞委員会委員長であった故南條道昌氏のコメントが印象深い。その内容は「審査の過程を通じて明瞭に時代的な価値観の変化の方向がたち現れてきているように思われる。第一は、都市環境デザインという領域の設定の中に、公的権力、資本の投資力の公共の福祉への貢献という視点だけでなく、市民参加の力が大きくクローズアップされてきていることである。市民の活動が集積して都市の環境空間の改善や、その場の利用活用の新たな展開を生み出しつつある例の紹介が JUDI 賞の過半数を占めることとなっている。第二の方向は、都市環境を捉える際の環境的持続性の重視の方向である。明治神宮の森や奈良公園のような空間が都市の中に存在していることと、その維持が巧みな仕組みによって図られていることなどが、これからの都市環境のあり方

への示唆を持つものとして挙げられている。また第一の市民の関心もこのような環境の浄化や維持に関わるものが多い」。その後の JUDI 活動は、この時に方向が示されたと思われるし、公募制プロジェクトの設置もその一つである。

一方、モニターメッセについては、当初の 10 年余り続いた活況もやや低迷の時代に入ったが、追い風にも思われた「景観法」の施行により新たな展開が期待された。しかし、公共事業に対する一般の見方は厳しく、公共事業費の削減の傾向は止まっていない。そんな中、設立 20 周年を迎えての記念事業が検討され、事業委員会としては 19 回のモニターメッセをふり返ってのレビュー集の編集・刊行、そして 10 年前に設置された JUDI 賞の一つとして「JUDI パブリックデザイン賞」の設置と実施、20 周年記念としてのモニターメッセの単独開催を行うこととなった。

前述した JUDI 賞は、各ブロック活動を中心に都市環境デザインに関わるソフト的な活動事例を中心としていたが、今回事業委員会では、ハード事業に関わる分野として「パブリックデザイン」という観点に着目し、「景観法」の運営に関わる国土交通省とともに、経済振興や地場産業に関わる経済産業省の理解と支援を視野に入れている。この「JUDI パブリックデザイン賞」は、過去にモニターメッセに参加した企業、そして会員の方々に呼びかけ、20 年間の実績、事例について優秀な事例を推薦して頂き、審査を行って各賞を決定、表彰するものであり、社会に対してピーアールするだけでなく、パブリックデザインの必要性を訴える格好の機会と考えている。

3 月 11 日の東北大地震を機会に、今後の JUDI 活動を抜本的に考え直すこと、そして都市環境デザインが果たす役割を基本から再構築することが必要と考えている。事業委員会としては、これまでの活動をふり返り、各ブロックの活動やソフト的計画事例とともに、都市の環境や景観を形成してきたハード的側面に視点を向けた「パブリックデザイン」の意義に着目し、設計や計画に関わった会員、あるいは製造や施工、管理に関わった関係者と一緒に安全・安心、かつ快適で美しい日本の都市づくり、まちづくりへの貢献を目指したいと考えている。また、各地方、地域が主体となったまちづくり方策や産業振興方策に対して、モニターメッセが進めてきた事業を発展させる「パブリックデザイン」の普及は大きな意味を持つと確信している。

終わりに、この度の大震災後であるからこそ、震災復興策が一時的かつ一部の環境づくりに終わるのではなく、20 周年記念事業の「しあわせな風景×デザイン JAPAN」にあるように、公共空間や環境のソフトとハードのデザイン、そしてハートのデザインへと展開することで我々 JUDI 会員や関係者が元気になると同時に、日本中に「しあわせな景色」が広がるよう力を結集したいものである。

# 国際委員会 20年の歩み

服部圭郎 Hattori Keiro 明治学院大学

## 1. JUDI20周年にあたり

JUDI20周年という節目の年に国際委員長を仰せつかった。それまでも委員会にもそれほど積極的に参加したわけでもなく、長島委員長、倉田委員長という錚々たる都市デザイナーの後継者として、都市デザインの仕事もしていない私が、果たして国際委員長をやれるのか自信も持てない中、20周年の歩みをまとめるといふ要望がきた。書いても無礼、書かなくても無礼、ということであれば、書かない方がましかとも思うが、それも無責任であるというので、私なりにまとめさせていただく。このような人間がそもそも国際委員長をやっているということが、国際委員会の問題であるとも思われるのだが、手元にある資料を元に整理を試みたいと考える。

## 2. 国際委員会の歩み

### (1) 長島委員長の時代

国際委員会は第4期に発足した。初代委員長は長島孝一氏が務められ、西村幸夫氏、佐々木葉二氏、加藤源氏、窪田陽一氏、倉田直道氏、井口勝文氏、南條洋雄氏、望月真一氏など、日本の都市デザインを代表するドリーム・チームのような委員から構成されていた。委員会がつくられた当初は、日本の都市デザインを広く世界に発信し、職能としてもしっかりと確立させていこうといった意志が存在したのではと推測する。

このドリーム・チームのようなメンバーは、若干の変更はあったものの第8期の途中まで続く。その頃の委員会の主な活動としては、国際セミナーが中心であり、日本の都市デザインを客観的に捉えようという問題意識が強かったのではないかと考えられる。また、JUDI紹介パネルを英訳するといった、超多忙な委員の方達がどこで時間をみつけたのかと思われるような活動も行っている。これは日本の情報を発信するという使命感に基づいていたのであろうが、現在の国際委員会ではとてもやれないような活動である。

### (2) 倉田委員長の時代

第8期の途中で、長島委員長から倉田委員長へと引き継がれる。その経緯は大変申し訳ないが、筆者には不明である。委員長の交代によってメンバーも4人が交代するということになり、新しい国際委員会の活動が展開されていく。

それまでは、同委員会はセミナーが活動の中心であり、その流れはそのまま継承されるのであるが、長島委員長の時代は、企画がしっかりとされており JUDI としての問題意識を有したセミナーが開催されていたのに対し、新しい国際委員会は、外国から都市デザイ

ナーや研究者が来日すると、その機会をうまく捉えて、講演をお願いするというスタイルに徐々にシフトしていったという印象を受ける。

また、新しくなった国際委員会は、海外事例集の作成、ホームページ作成などに力を入れ始める。これらは第8期に提案されてから、しばらくの間、活動計画に記されていくのだが、結果としてコンテンツとして国際委員会が提供できたものは貧相なものとなっている。ただし、この委員会の動きが、JUDIのホームページの基盤をつくることに繋がったということは評価されてもいいのではないかと、思う。

倉田国際委員会のもう一つの特徴は、海外交流ツアーを実践したことである。第1回目は第11期に実施したベトナム・ツアーで、望月委員のネットワークをフルに活用した企画は、好評を博し、その後、ベルリン、上海、台湾、韓国、ブラジルなどのツアーを遂行する。

### (3) 服部委員長の時代

活発な活動を続けていた国際委員会であるが、第17期頃から低迷し始め、第19期には遂に一度も会議が開催されないような状況になる。そのような状況で、委員長の交代が行われる。15名いた委員は3分の1になり、随分と縮小した。発足時の華やかさに比べると、相当見劣りがする。ある意味で JUDI という組織の衰退をも象徴する組織の変遷ではないかと思われるが、とりあえずそれまでの国際セミナーは継承し、さらに JUDI のメンバーにセミナーを行ってもらおうという企画を実施した。これらは多くの人に集まってもらい、まだ国際委員会の存在意義はあるのかな、という手応えを感じている。将来の展望は決して明るくないが、粛々と活動を展開していきたいと考える。



JUDI 国際委員会主催の「韓国都市デザイン・ツアー」

国際委員会の活動経過

期	活動内容	委員（○印は委員長）
4期	1. 国際セミナー（「日本のまちづくりに物申す」）	○長島孝一、中井検裕、井口勝文、佐々木葉二、窪田陽一、加藤源、川井由寛、谷明彦、倉田直道、南條洋雄、三谷康彦、望月真一、西村幸夫、卯月盛夫
5期	1. 国際セミナー第一回目（T.C. Wang 氏「ランドスケープ・ドローイングの手法」） 同セミナー第二回目（「日本のまちづくりに物申す」、Nancy Finley 等、司会：長島孝一）	○長島孝一、中井検裕、井口勝文、佐々木葉二、窪田陽一、加藤源、川井由寛、谷明彦、倉田直道、南條洋雄、三谷康彦、望月真一、西村幸夫、卯月盛夫
6期	1. 国際セミナー第一回目（「ブラジリアを語る」） 同セミナー第二回目（「外国人の見た関西の都市環境」） 2. 国際セミナー記録出版	○長島孝一、中井検裕、井口勝文、佐々木葉二、窪田陽一、加藤源、川井由寛、谷明彦、倉田直道、南條洋雄、三谷康彦、望月真一、西村幸夫
7期	1. 国際セミナー第一回目（海外と日本で実務を経験した4氏） 同セミナー第二回目（タイトル、参加者不明） 2. JUDI 紹介パネルの英訳	○長島孝一、中井検裕、井口勝文、佐々木葉二、窪田陽一、加藤源、川井由寛、谷明彦、倉田直道、南條洋雄、三谷康彦、望月真一、西村幸夫
8期	1. 国際セミナー（ポーリン・ボスマン氏）	○倉田直道、有賀隆、井口勝文、今泉恭一、加藤源、川井由寛、谷明彦、長島孝一、南條洋雄、三谷康彦、望月真一、土肥真人
9期	1. 国際セミナー（アン・ムドン氏：ワシントン大学）	○倉田直道、有賀隆、井口勝文、今泉恭一、加藤源、川井由寛、谷明彦、長島孝一、南條洋雄、三谷康彦、望月真一
10期	1. 国際セミナー第一回目（Krau 氏：ミュンヘン工科大学）	○倉田直道、有賀隆、井口勝文、今泉恭一、加藤源、川井由寛、谷明彦、長島孝一、南條洋雄、辻本智子、三谷康彦、望月真一、松久喜樹、服部圭郎
11期	1. 国際セミナー第一回目（エンツォ・トゥリアコ教授：ローマ大学） 同セミナー第二回目（パウロ・チェッカラーリ教授：フェラーラ大学） 2. 海外交流計画：第一回目（ベトナムの環境デザイン視察の旅）	○倉田直道、有賀隆、加藤源、川井由寛、谷明彦、長島孝一、南條洋雄、辻本智子、三谷康彦、望月真一、松久喜樹、服部圭郎、岸田文夫、工藤安代
12期	1. 国際セミナー第一回目（ポール・ルクロア氏：パリ市） 同セミナー第二回目（デモステネス・アフラフィオティス教授） 同セミナー第三回目（「中国の都市環境デザイン」） 2. 海外交流計画：第二回目（ベルリンの環境デザイン視察の旅） 3. 海外事例集の作成（JUDI のホームページにて数点アップ）	○倉田直道、加藤源、川井由寛、谷明彦、長島孝一、南條洋雄、望月真一、松久喜樹、服部圭郎、工藤安代、面出薫
13期	1. 国際セミナー第一回目（「コンパクトシティ」セミナーを開催） 同セミナー第二回目（「海外コンペ入選者に聞く」） 2. 海外交流計画：第三回目（上海・江南地方都市環境デザイン視察の旅）	○倉田直道、加藤源、谷明彦、長島孝一、南條洋雄、望月真一、松久喜樹、八木健一、工藤安代、越知昌賜、面出薫、川井由寛、服部圭郎
14期	1. 国際セミナー（J.P. シャルボノ氏：リヨン市） 2. 海外交流計画：第四回目（台湾の都市環境デザイン視察の旅） 3. 戦前教育紙芝居「稲村の火」復刻・普及活動の支援	○倉田直道、加藤源、谷明彦、長島孝一、南條洋雄、望月真一、松久喜樹、八木健一、工藤安代、越知昌賜、面出薫、川井由寛、服部圭郎
15期	1. 国際セミナー第一回目（中村ひとし氏：元クリテバ市環境局長） 同セミナー第二回目（イーサン・セルツァー：ポートランド州立大学教授） 2. 海外交流計画：第五回目（ブラジルの都市環境デザイン視察の旅）	○倉田直道、加藤源、谷明彦、長島孝一、南條洋雄、望月真一、松久喜樹、八木健一、工藤安代、越知昌賜、面出薫、川井由寛、服部圭郎
16期	1. 国際セミナー（チェスター・リーブス氏：バーモント大学名誉教授） 2. 海外交流計画：第六回目（韓国の都市環境デザイン視察の旅）	○倉田直道、加藤源、谷明彦、長島孝一、南條洋雄、望月真一、松久喜樹、八木健一、工藤安代、越知昌賜、面出薫、杉浦栄、服部圭郎
17期	1. 海外交流計画：第七回目（イタリアの都市環境デザイン視察の旅）	○倉田直道、加藤源、谷明彦、長島孝一、南條洋雄、望月真一、松久喜樹、工藤安代、越知昌賜、面出薫、杉浦栄、服部圭郎、田口泰彦
18期	1. 国際セミナー（フランク・ルースト氏：ドルトムント工科大学）	○倉田直道、加藤源、谷明彦、長島孝一、南條洋雄、望月真一、松久喜樹、工藤安代、越知昌賜、面出薫、杉浦栄、服部圭郎、田口泰彦、金澤成保
19期	活動なし	○倉田直道、加藤源、谷明彦、長島孝一、南條洋雄、望月真一、松久喜樹、工藤安代、越知昌賜、面出薫、杉浦栄、服部圭郎、田口泰彦、金澤成保、高谷時彦
20期	1. 国際セミナー（クリスタ・ライヒャー氏：ドルトムント工科大学） 2. 国際情報交流セミナー（井口勝文）	○服部圭郎、長町志穂、松久喜樹、田口泰彦、金澤成保





# 20周年記念事業特別委員会の活動について

堀口浩司 Horiguchi Koji アルパック

平成23年(2011年)5月に都市環境デザイン会議の20周年を迎えるにあたり、その記念事業の実施について代表幹事と経験者によるJUDI20周年記念事業特別委員会準備会を平成21年4月に立ち上げ検討を始めた。

準備会(堀口浩司、伊藤登、高見公雄、埜正浩、作山康)では、20周年記念事業の期間を2010年6月～2011年5月末までと定め、各ブロック及び各委員会が20周年のコンセプトやテーマを軸に各地で活動を展開してもらおうということになった。また、同じテーマを共有することで、ブロックの活動やブロック間の交流を促進することとした。さらに、平成22年7月の総会での承認を経て、20周年記念事業特別委員会が正式にスタートした。

## 1. 20周年記念事業特別委員会の活動

委員会としての活動内容は以下のとおりである。

### (1) 統一テーマの決定

「しあわせな風景 × デザイン JAPAN」

これからの都市環境デザインは何を目指すか、21世紀の都市環境デザインとは何か、といった観点からHP等でJUDI会員に意見聴取を行った。その結果をふまえて代表幹事会、記念事業特別委員会の合同会議では、以下のような意見が出された。

- ・イベントのための一過性のキャッチフレーズではなく、今後の都市デザインの方向を示す言葉、社会に対するメッセージ性のある言葉で表現したい。
- ・「地域の個性」「日本らしいデザイン」「西洋からアジア」といった新しい展望を示したい。
- ・表層的なデザインや場所づくりにとどまらず、心象風景に訴えるような言葉を求めたい
- ・「ひとり一人の異なるイメージがふくらむ」ものになりたい。

このような議論の結果、記念事業全体のテーマを「しあわせな風景 × デザイン JAPAN」とした。

### (2) 記念マークの制作

20周年記念事業のマークは、宮沢功氏の監修の元で、野口正治氏にデザインを依頼した。複数の候補案の中から以下のマークに決定した。当初のアイデアは「人と人が結ばれる会議」というコンセプトである。人間のようなモチーフが、火や木や大などの文字となって自然的な要素を表しているように見え、人と自然の多様な関係を表しているといった意見などにより決定された。

### (3) 予算配分への調整

各ブロックへの特別な予算措置としては、公募制プロジェクトを2ヵ年間休止し、その分の120万円を各

ブロックの企画内容に応じて配分することとした。



しあわせな風景  
×  
デザイン JAPAN  
JUDI 20th Anniversary

### (4) 20周年記念誌の編集発行

各ブロック幹事や各委員会委員長にお願いし、各ブロックや各委員会の「20年の歩み」を執筆していただいた。各活動の衰退を課題とするものもみられたが、今後の活動への意気込みが感じられるものもあり、20年の歴史を振り返る作業は意義があったと考える。

## 2. 反省点と次の10年に向けて

JUDI活動の源泉は各地域の活動にあるという考えから、統一的なテーマを設定し、テーマに沿って各地域ブロックの活動を連携するという方法をとった。そのため、各地域の独自性を発揮することができたが、その反面で地域間の会員数、活動力や連携のしやすさなど、地域間格差が生じた。また、20周年記念事業を契機として、ブロック間交流事業の開催に期待したが、島の景観フォーラム(研修委員会)など一部の取り組みに限定され、全体として十分に展開できなかった。また、民間企業とのタイアップや協賛に関する期待もあったが、リーマンショック以降の経済状況から、企業からの支援は期待できないという結果になった。

奇しくも20周年の年に、東日本大震災が発生し、改めて「しあわせな風景」が国民的課題であり、われわれ専門家集団はもっと大きな力を発揮すべき時であると認識させられた。しかしながら、都市環境デザイン会議に広く企業、市民、地方公共団体との連携や協働のためのネットワークや活動力が十分に発揮できる状況にあるかどうか、大いに不安である。都市環境デザイン会議とそのメンバーは社会に対して、今後の10年間にどのような役割を担うかを再考し、この国の未来に対して提言し、発信することの重要性を信じるころである。

---

## JUDI 20年の歩み JUDI 20year's walking

---

2011年7月16日

発行 都市環境デザイン会議  
〒113-0033 東京都文京区本郷 2-35-10  
本郷瀬川ビル  
tel. 03-3812-6664 fax. 03-3812-6828  
E-mail judi@japan.email.ne.jp  
URL <http://www.judi.gr.jp>

編集 20周年記念事業特別委員会

表紙デザイン 野口正治（有限会社ノグチデザインスタジオ）

---



